

## 表紙, 目次, 雑纂, 雑報, 通信

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/38412">http://hdl.handle.net/2297/38412</a>

明治四十三年九月三十日發行

# 十全會雜誌

第六十號

全澤醫學專門學校十全會

# 十全會雜誌第六十號目次

## ○原著及實驗

●沃度丁幾ノ消毒試驗

高岡榮

## ○雜纂

●化學的療法

●藥品検査便覽

志賀潔  
J Y 生

## ○學會

●北越醫學總會 ●金澤軍醫分團研究會 ●金澤醫學會

## ○內地雜報

●新醫學博士論文及畧傳 ●試驗廢止と受驗者 ●醫術開業試驗料 ●醫師の増減 ●兩極探檢糧食問題 ●慈善救濟事業の表彰 ●柴田博士の光榮 ●柴田博士の畧傳と逸話

## ○海外雜報

●ロックフェラー氏醫學研究所 ●伯林大學創立百年紀念祭 ●伊太利大學の工業病臨床講義 ●ナイチンガール嬢の遠逝

## ○醫校雜報

●學生の氾濫 ●醫學校卒業者數 ●愛知及京都醫專校入學者 ●藥學科卒業及收容數 ●醫專校卒業年齡 ●仙臺醫專校改築 ●岡山病院改築 ●長崎醫專校教授在職祝賀論文集 ●新潟醫專校附屬病院 ●新潟醫專校

の教授 ●新潟醫專病院の開設 ●新潟病院の引繼 ●大坂醫專の事業 ●大坂醫專と高等中學 ●大坂醫專の留學生 ●京都醫專の月謝増収 ●愛知醫專の近狀 ●愛知醫專及病院の新築 ●愛知醫專の研究科 ●熊本醫專の改築 ●熊本醫專の擴張 ●海軍々醫の募集告示

## ○通信

●在歐金澤同窓會 ●伯林通信 ●河合鷺氏通信 ●獨乙大學の日本醫專校排斥 ●ミュンヘン通信 ●小山田基氏通信 ●生沼曹六氏通信 ●獨逸留學同窓の寄書 ●獨逸留學生の合信 ●在獨下平教授歡迎會通信 ●淺利義次氏通信 ●井村勇作氏通信

## ○校內雜報

●入學宣誓式 ●新入學生歡迎の辭 ●新入學生一覽 ●精神病室の新築落成

## ○人事

●教授の叙勳 ●山崎教授 ●島田吉三郎 ●越野義三郎氏 ●鷺山謙吉氏 ●韓清泉氏 ●井村勇作氏 ●田中基保氏 ●中村欣一郎氏 ●森桑次郎氏 ●西川長造氏 ●大井藤四郎氏 ●大藏關重氏 ●近森村主氏 ●八賀重遠氏 ●中西島吉氏 ●池田茂氏 ●塚本政次氏 ●山本直枝氏 ●山岸岳氏 ●松田研吉氏 ●谷道清氏 ●高谷七兵衛氏 ●南茂吉氏 ●大原米次郎氏 ●宮田寬氏 ●山崎芳太郎氏 ●關承吾氏 ●鈴木伊作氏 ●中田盈疇氏 ●河合鷺氏 ●齋藤房治氏 ●今村碩次氏 ●相馬申五郎氏 ●高木琢磨氏

## ○廣告

雜纂

●化學的療法

敵毒新治療劑の性状、効力及用法

醫學博士 志賀 潔

エールリツヒ及秦の阿氏は、一兩年來敵毒に對する化學的療法を研究して、一種砒素化合物の特効あるものを發見するや、天下の視聽悉くこゝに集注したり、本年四月、バーデン、バーデンの内科學大會に於て、兩氏の其學術的及動物試驗成績を報告するや、聽く者皆此革命的發見を驚歎せざるはふかりき、愚者に於ける實地的試驗は忍ちにして獨逸の各大學に於て施行せらる、歐洲の學者競ふて之を試験せんことを希ふ、エールリツヒ氏は、過般北里博士に此新劑を寄せ、我邦に於ても亦之を實地に試験せられんことを依頼し來れり。

余輩嘗てエールリツヒ先生に就て學ふや、當時先生の懷抱せる思想は漸く熟し、原生動物學の發達に伴ふて、先生の化學的療法は、茲に創めて實現するの機運に到達したり、余輩先生の指導の下に「トリパンロート」の作業を成せしは、實に今日化學的療法創設の基礎を打ちしものありき、爾來先生の研究は、益々歩武を進め、幾人の助手は來り又去れり、而してエ先生の化學的療法は、益々發展し來り、終に「アルゼノフェニルグリチン」の發見に由りて、睡眠病及「トリパノミアース」には殆んど完全なる治療劑を得、最近秦氏の熱心と、精

勵とは、先生を助けて、終に敵毒及回歸熱の特異治療劑を完成するに至れり。

之より先、余輩は他の研究の目的を以てエ先生より「アルゼノフェニルグリチン」を、敵毒治療劑所謂六百六號なるものを得て、二三の試験を行ひたり、是の如くにして余輩はエ先生の化學的療法に對して、因縁淺からざるの關係を有し、従ふて現下我邦に於ては、同病研究に最經驗あるものなるを自ら信じて疑はず、是れ北里先生と共に、目下六百六號の試験に従事しつゝある所以なり。一日東京朝日新聞社員來る、余の舊識なり、彼れ余に問ふに敵毒新治療劑を以てす、余即具さにエールリツヒ、秦兩氏の研究を説けり、其記事一たび紙上に現はるや、天下靡然として之を傳へ、病者の福音として到る所に喧し、同學の士亦書を寄せて新藥の處方を需むるもの甚だ尠からず、即本誌を借りて、此一篇を載せ、以て同好の士に頒たんとする所以なり。

(一) 化學的療法の起原及發達

細菌學起り、免疫學興りて、治療的醫學は茲に一大革命に遭遇し、原因的療法なるもの生れたり、血清療法則是なり、血清療法とは直ちに疾病の原因を衝き、之を撃亡せんことを在り、從來の藥物的療法は、例之心臟機能を高め、神經を痲痺せしめ、疼痛を輕減せしむる等、單に症候的治療を目的とするに過ぎず、餘は自然の經過に委するのみ、血清療法は然らず、直ちに毒素を中和し、或は病原細菌を討伐す、之を以て病治せずんば止まず。血清療法及細菌の特異療法(例之ツペルクリン)凱歌を奏するや、世は學て傳染病なるものは最早恐るゝに足らず、結核治すべし、癩治すべし、天然痘治すべし、狂犬病亦治するを得べしと思惟せり、免疫研究進むに從ひ、世人は漸く其希望の空しきを慄れり、其立處に治療すべしとせしものは、血清療法に依るも猶不治のものあるを知るに至れり見よ血清療法に於て成功せるものは「デフテリヤ」を除けば破傷風、赤痢、蛇毒等、殆んど隻

手に數ふるに足らざるに非ずや、近年病原生動物の研究發達するに及び、此領域に於ては、血清療法ふるもの、全く絶望獨り牛疫血清を除きてと見做さるゝに至れり。

世人が失望せる時には、エールリツヒ氏は、既に好望を以て樂觀せり、世の未だ想到せざる間に、氏は既に成功の凱歌を擧げたり。

エールリツヒ氏が研究時代の第一期生物學的生理化學及血清の生理的研究に於て、氏が豫て抱持せる一大思想は、既に證明的基礎を得たり曰く『生物體の細胞及組織は、幾多の攝取分子簇より成る、營養素來りて之と結合すれば細胞は之を同化して自らを養ひ、毒素來りて之と結合すれば、抗毒素を產生し毒物來りて之に結合すれば、細胞は死す』(勿論此結論に歸着するには永き研究と幾多の實驗を経たり、今之を詳説するは本題の主旨にあらず)

次で氏は抗毒藥の研究を遂げて、血清療法を大成し、更に進て細胞の攝取簇に對する化學的研究を始めたり、茲に謂ふ所の化學的研究なるものは、化學的構成の謂に非ず、化學的生理の研究なり、換言すれば此分子簇と結合して、其細胞又は組織を死滅せしむべき物質の研究是なり。

各組織及臟器の細胞を構成する攝取簇の分子簇は各自異なり、故に一定藥物は、一定組織又は臟器に作用す、生物體を構成する細胞の分子簇も亦然らざるを得ず、果して然らば、原因的藥物療法の起點は既に明瞭とされり、例之人體に寄生する「マラリヤ」原蟲ありません、人體を構造する細胞には結合せずして「マラリヤ」原蟲のみ結合すべき化學物質は存在し得べき理あり、吾人は「キニーチ」に於て之を觀る、「キニーチ」は「マラリヤ」原蟲に働き、之を討伐するも、人體に危害を及ぼさず、故に「キニーチ」は「マラリヤ」に對する特異治療化學劑ありと謂ふを得べし。

然れども、茲に一言の注意を要す、人體には絕對に無害にして病原體にのみ有害なるものあらんには、是實に理想的の特異治療劑なり、免疫血清は

之に近し、然れども化學的成劑にしてかゝる理想的のものは殆んど望むべからず、故に人體に對する極量(致死量)と、病原體に對する極量との差極めて大ければ、即ち理想的に近きものあり、更に之を方式を以て示せば、人體「キロ」に對する極量(Dosis tolerata)と、病原寄生體を死滅せしむる量即治量(Dosis curativa)との差(毒量)大なれば治療的價值從て大なるものと謂ふを得べし之を要するに、免疫血清は、動物體の反應物質にして、特異作用を有す、然れども傳染病に對する血清療法は、世人の始め期待せるが如く、廣く其成功を望むべからず、茲に於てか新たに化學的療法の研究起れり、而して其基く所の原理は二者に於て異なる所を見す。

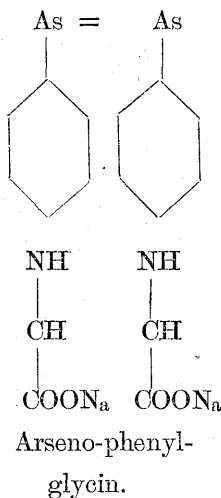
(二) 化學的治療劑

從來の藥物學の治療法を講ずるは、症候的あり、化學的療法は、原因的療法を研究す、之れ兩者の異なる所にして、研究の方法も亦從て同じからず、化學的療法の研究方法は、試驗動物に病原體を接種し、之に化學劑を注射して、之を消滅せしむるものを求む、故に其藥品は宿主動物に對して成るべく無害にして、病原體に對し、大なる攻撃力を有せざるべからず、之を Therapia magna sterilisans と謂ふ、最偉大なる消滅的治療の義あり。

一九〇二年エールリツヒ氏は「トリパノゾマ」病に對し、氏が永く胸中に秘し置きたる、化學的治療の研究に着手したり、之より先き一八八六年氏は「メチレン」青の「マラリヤ」原蟲に對して殺滅的治療の効あるを發見したりしが、爾來氏は免疫學々理の研究に於て細胞攝取體即鎖の觀念は益々發展進歩するに從ひ、化學的療法の原理は愈々確立するに至れり、千九百年の初に於て、原生動物學は大に勃興の兆を現はし、細菌學者生物學者間の注意を惹起し來るや、エールリツヒ氏の期待したる時は到來しぬ、氏は直ちに「トリパノゾマ」を取て、動物に接種し、幾多の化學劑を製造して之が治療を試みたり、當時余輩は先生の指導の下に、百余種の「アニリン」色素誘導體と、數種の砒素化合物(アトキシール等)を試験し、遂に一

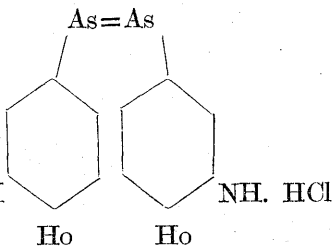
種「ベンチアン」及「ナフタリン」の化合物は、「トリパノゾーム」に對し、最有効なるを發見したり、之を「トリパンロート」と名づく、「トリパノゾーム」に對する有効なる赤色素の義に取る。後ラウエランは「トリパンアラウ」を製せり、「トリパンロート」に  $\text{NH}_2$  の二分子を加へたるものに外ならず。

一九〇五—六年の頃には、「トリパノゾーム」に對する治療研究は益々進みて、砒素化合物の誘導體を發見せり、「アルゼノフェニールグルチン」是あり、該化合物は動物體に對する致死量の甚大なるに反し、病原體に對する致死量は極めて小にして、其微量を以てよく之を消



滅せしむるを得べし、是即理想に近き化學的療劑あり。シヤウチンの微毒病原を發見するや、其醫界に興へたる振動は前後殆んど比ぶ、其研究的活動の潮は、勃然として起れり、エールリツヒは直に之を取て其研究の資材せり、初め「アルゼノフェニールグルチン」を以て之を試みしが、稍々其効價の見るべきものありしも、未だ以て最大治癒治療劑と爲すに足らず、爾來「スピロヘーテ、パリダ」に試みられたるもの二百又三百種遂に六〇六號に當るもの最有効なるを發見せり、其化學的構成は「デオキシ、ザアミド、アルゼノベンツオール」にして、二分子の鹽酸を含有す「スパイエルハウス」に於て化學者ドクトル、ベルトハイム氏の製造したるものあり。

秦氏は兎の陰囊に「ス、パリダ」を接種して下疳を發生せしめ、之に上記の化學劑を注射して、其効力を試験せり、體重「キロ」に對し〇・〇一五—



〇・〇一を注射すれば、「スピロヘーテ」は廿四時間にして消失し、〇・〇五あれば二日乃至三日にして消滅し、而して下疳は二乃至三週にして全く治療す。

南京鼠に對する極量と治量との比は、二・七と一にして、家鼠に對しては三・三と一との比あり、家兔體重「キロ」に對し〇・一を靜脈内に注入するも、よく之に堪ゆるを以て、家兔に對する極量は治療量の二十倍に當る、左表の如し。

家兔(體重一キロに對し)	家鼠(體重一キロに對し)	南京鼠(體重二〇瓦に對し)	極量	治療量	治極(c/T)
〇・一	〇・二	1/360	1	800	1/2.7
〇・一	〇・〇六	〇・二	1	〇・〇六	1/3.3
〇・一	〇・〇〇五	〇・一	1	〇・〇〇五	1/20

砒素劑	極量(體重一キロに對し)	治療量	(c/T)
アトキシール	〇・〇六	〇・〇三	1/2
アルザツエチン	〇・一	〇・〇三	1/3
アルゼノフェニールカリチン	〇・四	〇・一二	1/3.3
アルゼニール酸水銀	〇・一	〇・〇四	1/2.5

今各種砒素劑の効力を知らんが爲めに、左に鶏「スピロヘーテ」に對する治療試験の一例を擧げん。(秦氏の試験)

六〇六號

〇・二

〇・〇〇三五

158

此表により六〇六號の如何に其効價卓越にして理想的に近きものあるを知るに足らん。

是に於て六〇六號あるものは名けて「エールリツヒ秦の新劑」と稱せらる。

(三) 六〇六號の敵毒及回歸熱患者に對する効力

六〇六號は秦氏の手によりて動物試験上敵毒及回歸熱等の「スピロヘーテ」に對し、偉大の効あるを決定したり、茲に於て當然起るべきは人體に於ける應用是なり。

家兎に對する試験に由りて推す時は、體重一「キロ」に對し、〇・〇〇五を以て治療量と爲すべきに似たり、患者の體重五〇「ギロ」(約十二貫)あれば、〇・二五瓦を要し、體重六〇「キロ」(約十五貫)あれば〇・三五を要すべし。エールリツヒ秦新藥を始めて人體に應用したるはアルト及イヴェルセンの二氏なり、甲は之を麻痺狂に用ひ、乙は之を回歸熱に試みたり、二氏の報告の要點大畧左の如し。

アルト氏 最新エールリツヒ秦新藥の敵毒療法精神病中最恐るべき進行性麻痺及麻痺狂が、敵毒に原因するものあるは、諸家の意見一致す、是等の患者は壯年者に來り、獨逸に於て年々數千の病者を生ず、該患者を初め「アルゼノフェニールグリン」を試みたり、其量〇・八一—〇・〇瓦にして、筋肉内に注射せり、敵毒の既症を有し、且ワツセルマン反應陽性なる患者百二十一名に試みしに、中二十名にはワツセルマン反應全く消失し、十三名には著しく減少せり、即(一・六六—二七・三%)に當る)次に六〇六號を試みたり、其量〇・三五瓦を水に溶し、苛性曹達を加へて「アルカリ」性溶液とし、之を二十三名の患者(多くは麻痺性患者)に注射したり、局部に疼痛を發せるも、十二乃至二十四時間にして去れり。

右の患者中、十八名にはワツセルマン反應陽性ありし、注射後、二名にはワツセルマン反應全く消失し

二名には 著しく減少し  
三名には 輕度に減弱せり

「アトキシール」の尿中に排泄せらるは二日、「アルゼノフェニールグリン」は三—五日を要するに六〇六號は甚だ緩慢にして、十日間尿中に之を證明したり、但し六〇六號は腎臟を害することなし。

イヴェルセン氏 エールリツヒ秦新藥砒素劑(六〇六)の回歸熱に對する作用。

回歸熱に對する治療劑は未だあるなし、而して該病は其急性なるを、熱型の特異あると、又患者の血液中に「スピリルレン」を證明するとに由て藥劑の治療的試験は最正確にして且甚だ利なり。

初め六〇六號の〇・〇五—〇・一を試みしが、効果なし、進で〇・二五—〇・三を用ゆるに及んで、著明なる効果を見たり、四名の患者には〇・四をさへ試みたり。

五十二例の回歸熱患者に試みしが、中三十七例は第一回發作に於て、十一例は第二回發作に於て、筋肉内に注射し、四名には第一回發作に於て靜脈内に注射したり。

總ての例に於て、注射後多くは七乃至十四時間、晚くも二十時間にして熱は分利し「スピロヘーテ」は四、七、乃至十時間にして全く血液中に消失せり。

注射後三四時間後、多くの患者は、惡寒戰慄あり、十五分乃至三十分にして止みたり、體温は此時更に昇り、次に發汗するに共に、熱は全く分利せり。

唯僅かに四例に再發ありき、即九二%には再發なくして治癒せり、而かも再發時には血液中に「スピリルレン」を發見せざりき。

四十年前オーベルマイエルが發見したる「スピロヘーテ」は、今日エールリツヒ及秦に由て始めて之を撲滅し得べき特效藥を發見するに至れり

右の二業蹟は、既に醫學雜誌上に公にせられしものあれども、其他六〇六號を黴毒患者に試みつゝあるもの甚だ多く、獨逸に於ける各大學の皮膚科に於ては、争ふて之を試み、殊に柏林大學に於ては、盛に之を試みつゝあり、今日に至るまで、之を試みたる患者の數五百餘に上ると云ふ、我傳染病研究所及東京醫科大學皮膚病梅毒科教室に於ても、既に數名の梅毒患者に試み、其偉効を認めつゝあり、吾人は實驗の例を他日詳細に報道するの期あるべし。

(四) 黴毒新治療劑の用法及注意事項

六〇六號の新劑は、鹽酸の二分子を有するを以て、水に溶解すれば酸性反應を呈す、苛性曹達を以て之を中和すれば、膠狀の沈澱を生ず、更に一定度の苛性曹達を加ふれば、再び溶解して茶褐色の溶液と成る、然れども「アルカリ」性液を注射するに、疼痛甚しきを以て、あるべく苛性曹達の量を減ずべし。獨り此一點は本劑の欠點とも見做すべし。本劑は空氣に觸れば酸化して毒力増加す、故に本劑は小硝子管に一定量を盛り、真空として密封して貯ふ。

溶解法 余が實驗に基きたる方法は左の如し。

眞空硝子管の細き一端に鏽を以て切りを入れ熱したる硝子棒の一端を之に觸るれば龜裂す、即之を軽く打て響を發して破る、是に於て消毒したる小なる硝子乳鉢に其内容(〇・三)を出し、先づ少許の滅菌蒸留水を加へて丁寧に溶解し、約一〇ccの水を加へたる後一cc「ピペット」を以て定規苛性曹達液を加ふ、其量通常〇・八(本劑〇・三に付き)を加へてよく混すれば、弱酸性ある透明液を得べし、更に徐々に苛性曹達液を加へ、中性とされば膠狀に沈澱す、更に又之を加ふれば再び透明ある溶液と成る、苛性曹達の全量は約二・〇ccに當る、赤色試験紙を以て之を検するに、強き「アルカリ」性を呈す、此に於て三〇ccを目盛まで水を加ふ。

該溶液は即ち一%あり、之を臀筋肉に兩側に注射す、其用量體量「キロ」

に付き〇・〇〇五の割合あるを以て、今體量十二貫目の患者に注射するに

十二貫は約四十八「キロ」に當るを以て

$$48 \times 0.005 = 0.24 \text{ gr.}$$

即〇・二四、五あり而して溶液は一あるを以て恰も二四・〇ccを兩側に分ち注射すべし。

近時其量を増し「キロ」體量に付き〇・〇〇六―〇・〇〇七まで用ふこと云ふ即體重六〇「キロ」(十五貫)の患者には〇・四を注射するに至れり。

「アルカリ」性液は、注射後一日乃至二日間其部に稍々劇しき疼痛を發す、或は劇しく腫脹するを以て、寧ろ弱酸性を可とす、即本劑の鹽酸二分子の中一分子を  $\text{Na}$  にて中和すれば、Monohydrochlorid と成る、既記の如く定規苛性曹達液約〇・六一八を加ふれば、弱酸性の透明ある溶液を得べし、之を注射するに疼痛を發すること少きも、

イウエルゼンは疼痛を除かんが爲めに靜脈内注射を賞用す其法左の如し。

〇・三を滅菌蒸留水一五ccに溶かし、定規苛性曹達液を滴下して、「アルカリ」性透明液と爲し更に一醋酸を滴下して(約二cc)過剩の「アルカリ」性を中和す、是に於て生理的食鹽水を加へて全量の半「リೀテル」に充たし、徐々に靜脈内注射を行ふ、疼痛全く甚だ便利なりと云ふ。

要するに「アルカリ」性液は、全く透明と成るまで「アルカリ」を加ふるの要なきを以て、あるべく少量の苛性曹達液を用い、僅かに溷濁するを度として用ゆべし、或は弱酸性液として用ゆべし。

注射後の副作用は、局部の疼痛の外殆んど全くなし、硬性下疳の分泌は速かに止み、肉牙を生じ「コンヂローム」及「バーベル」は速かに吸收せられ「ケムマ」は縮少す「スピロヘーテ」は一二日にして消失するを常とす、但リツセルマン反應の消失するまでには約四十日を要す。

イヅエルゼンの報告せるが如く、蛋白質を發することなく、又秦氏の報ぜ



る如く動物は「アトキシール」等に囚て屢々見るが如き失明に陥りしことありと謂ふ、故に本劑は「アトキシール」或は「アルザニール」(註)等に比し、毒性甚微弱なるを知るべし、然れども經驗を積むまでは、幼者及老人には注射を避け、又重き結核患者尿管硬變を有するもの、酒客、腎臟炎、網膜に異狀あるもの等には使用せざるを良とす。

### ●新エールリツヒ及秦氏藥劑に對する

#### ナイセル氏の意見

近時世界の耳目を聳動せしエールリツヒ及秦氏新藥劑の、人類梅毒に對する効驗の如何あるやは、最も世人の注目する所にして、特に現時世界に於ける梅毒學の泰斗たるナイセル氏の之れに對する意見は、此際我醫人の早く聞知せんとする所なるべし、然るに吾人が最近に接する六月三十日發行の獨逸醫學週誌第二十六號には機敏なる同記者の希望に應じて是に贈りしナイセル氏の公開狀を掲載せり、之を一讀せば、此大家の新劑に對する意見を窺ふに足るを以て、今之を抄譯して左に掲ぐ。

ナイセル氏は先づ公開狀の劈頭に於て、自己が普通の形式に於ける精細なる學問上の報告文を贈る能はざると、本劑の梅毒治療に際し如何に作用するか、又本劑が水銀療法より迅速且確實に絶對的治療を惹起し得るや否の判断を下すには、自己の試験が尙餘りに僅少にして、從つて未だ十分の結論をなす能はざる旨を斷りつゝ述べて曰、吾人は今日最も確實に左の如く公言するを得べし、曰、「此新劑は豫想外の卓絶する作用を「スピロヘ」(註)「アテ」及び梅毒新生物自己に及ぼすものあり」又「スピロヘ」は動物の梅毒に於てのみならず、又人類の梅毒に於ても、非常に多數の場合にありて、既に二十四及び四十八時間の後それが本劑使用前に多數に存在

(雜纂)

せし第一期疾患及び「コンザロム」中より消失す。

本劑の「スピロヘ」自己に及ぼす直接作用の確證は、既に裏觀察せられし蕃薇疹及丘疹の周圍に於ける全く著明なる局處(ヘルキシハイメル氏)反應の發生によりて認むべし、注射前比較的蒼白赤色の發疹は、二十四時間後の時として著しき腫脹を赤暈とを呈す、而して本劑の「スピロヘ」に對する此作用は、撲殺(内中毒物の遊離と共に)に因るか、或は「スピロヘ」を全く撲滅せしむるも同時に多量の毒素を分泌せしむる

一種の刺激と見做すべきかは尙疑問たり。

梅毒性病機に關しては、多くの例に於て、本劑の特効藥なるに於て少しの量もなき程迅速なる第一期疾患、梅毒性丘疹、特に潰瘍性病機、特に悪性梅毒の退行を見るべし。

素より吾人の希ふ總てのもの、即梅毒の眞の絶滅は、今日にては僅少の例に於てのみ達せらる、吾々自らも我例の唯略一〇%に於て陽性反應(譯者曰ワツセルマン反應)の陰性に轉換せるを確定し得たり、併しかゝる不成就は、偶以て今日用ゆる分量の尙餘りに小なることを知るに足る、故に今後に於ける實驗の問題は、中毒の危険なくして今日まで吾人の使用せし分量を越えて幾許量を用ひ得るかを決定するにあり、吾人は尙〇、四以上を用ひざりき、併しマグテアルカのシュライベル氏は既に〇、七を筋肉内注射として用ひここまを予に報告せり。

注射の方法に至りては、吾人は事情の許す限りは靜脈内注射法を選用せり、其際屢々急性の三十九度五分に達する熱發を來し、嘔吐數々之れに次ぐ、併し熱は數時間の後下降し、患者は著しく爽快さある、吐物中には今日まで未だ砒素を検證せず、かゝる體溫の昇騰は、之れを「スピロヘ」の滅亡と、毒素の遊離とに歸するを妨げず、曾て六〇六號を以て治療されし僅少の非梅毒の例にありては、かゝる熱候は決して起らざりき。

之れに反して筋肉内注射にありては、多くの場合に於て、著しき局處疼痛

と硬き溼潤とを招來す、是れ此藥品は常に強き亞兒加里性溶液の頗る多量(少くも二〇立方仙迷を注射せざるべからざるに因る、而して此症狀は六乃至八日内に痕跡なく消失す、其他の副作用は、予等及び予の知る限り他人も亦決して實驗せざりき。

注射によりて後に漸々減弱する強き白血球過多症(三八、〇〇〇まで)を惹起す。

吾等の實驗せし彼の陽性反應の陰性に轉換せし例は、總て感染後又は初期後最も速に治を求めし患者のみありき、故に本劑に於ても亦他の砒素製劑に就て成されし經驗、即之れに全く特別なる豫防的効力を歸するを確定すべし、曾て予等は、確實ある初期疾患を有せる一患者(スピロヘーテリ證明)に、其尙陰性反應を呈する際に注射を行ひしに、漸々陽性反應を起せしことを實驗せざるを得ざりき即ち此際には確に其體內に於て一の毒毒作用も行はれざりしあり、但六十基瓦の體重を有する此患者に〇、三の分量の餘りに小ふりしは想像するに足らん。

予等は又猿に就て本劑の効力を驗し、既に梅毒に罹りたる動物の十二疔を治療せり、就中筋肉注射は體量一基瓦毎に〇、〇二五、靜脈内注射は體量一基瓦に對し〇、〇一五を用ゆ、然るに此十二疔中、今日まで僅に三疔に於て確實ある治癒を確定し、他の二疔は治癒に近く、其他は凡て不治と認めざるべからず、併し此試驗に於ても亦分量の餘りに過少なることを注意せざるべからず。

豫防試験は尙未だ遂行せざるも、梅毒接種前十二日に體重一基瓦に對し〇、〇二五を筋肉内に注射せし二疔の動物に於ては、他の同時に接種のみを行ひ本劑を注射せざる猿に於けるより、著しく遅く且甚だ僅に初期疾患の發生を見るを得たり。

以上記述せし所によりて理解し得る如く、予は新藥の重要なることを種々の方向より證明し得たり且予は吾人が比較的短き期間に於て尙多くの進

みたる方法によりて、その梅毒に對する價値を認知し得るを疑はず、予等、純粹に新鮮なる患者に就きては、眞に梅毒を其萌芽に於て撲滅し得る企望を有す、重き潰瘍性の場合に就きては、從來の水銀又は沃度に於けるより速に治癒せしむるを得、吾等は多くの場合に於て既に倦みたる水銀療法を、一回或は甚だ稀に反覆する「アルセンペンツォル」の注射によりて補ひ得るべからん、恐くは「スピロヘーテリ」の水銀對抗性に歸すべき水銀療法が無効なる場合、及び水銀に對する特異質のため全く水銀療法を行ふ能はざる患者に於ても欠くべからざる治療薬なり。

予が本劑に對する希望の然く大なるに従ひ、予は世上多數の醫家か、尙確定せざる分量と注射回数等の關係の判明するの日を俟つとを信ず、又予の知る所にては、本劑は尙未だ全く製造所にて製造せられ、且市場に提出せらるゝに適せざるべからん總て予等が試験に關する詳細の報告は、此次にドクトル、クツニツツキ君が公にするべからん。

### ● 學術的招待會

獨逸に於ける斬新の會  
秦氏の新治療藥の演說

エールリツヒ氏と共に梅毒新治療劑の研究に従事し令名を内外に馳せたる在獨逸の秦佐八郎氏が六月十一日氏の在學地たるフランクフルト、アム、マイン市にて開かれし同市のゼンケンベルク氏會及び理學協會の主催にかゝる學術的招待會 Wissenschaftlicher Empfangabend の依頼により氏等の研究にふる新藥に就きて講演せられし所の大要を左に記す。

本會はフランクフルト市のゼンケンベルク氏會及理學協會の共同發起に成りしものにして、其目的は紳士淑女を招待して一夕愉快半分に學術的の

供覽をふすに在り、かゝる會合は近來英國にて大學或は協會等にて催ふされて好結果を得たるより各國にて之れに倣はんとするものにして、獨逸にては本會を以て最初とす、會の準備としては同研究所の博物館、理學協會研究所、化學協會研究所等が年來所藏せる多數の標本、器械裝置及び教會品を悉く陳列し、又他の研究所より有益なる物品を借り集めて陳列し、且諸處より諸家の出演を求めしものにて、其陳列品及び「デモンストラチオン」の多數あると實に想像の外にあり、而して此くの如く多數の出品の何れもが、萬有學的に興味多きは素より中には斬新且高尚にして、多少萬有學の一端を窺ひし者にあらざれば、説明なくては到底理解し難き品少からず、然るに之を一般の人士特に婦女にまで示して、少くも其一端を理解せしむることは決して容易の業にあらず、乃同研究所の入々は素より、他の研究、病院、協會等の若手連（大抵ドチエント以下）の總出にて、陳列せる「デモンストラチオン」の傍に立ち、多數の見物人に一々説明せしむる仕組あり。

講堂には僅に二ヶ處を用ひしのみにて、其他は三大建築物の各階を通じて、部室は素より試験室に至るまで、略取り方附けて、室内に長き机を並べ、机上に多數の物品を陳列し、説明者は机の後に立ちて客に向ふ、其狀綠日商人宜しくさ云ふ光景あり、併し光線や電氣は御手の物の故、如何なる勝手の「デモンストラチオン」も到る處にて任意に行はれて差支ふかりき。陳列品の範圍は、天文、地理、礦物、動植物、純理學的及應用化學的の物多し出品物にして、要するに萬有物の各方面に涉りて網羅せざるものなし。幹事の談によれば、招待狀は市内は素より、附近の大學、會社及協會などにも送られたれば、婦人及令嬢にて少くも二千四百人は來會すべしとのをかりしが、實際の数は三千人以上も集まりたるもの、如く、出盛り頃には三大建築物の何れにありても、人波打ちて立錫の地ふさ云ふ盛況ありき、而して此等多數の人々は素より「ゲゼルシャフトアーベンド」の故

男女共盛裝の粉裝中々立派ありし。

來賓に於ても亦頗る多忙を極めたるもの、如し、八時開會十時閉會にて、其時間短き中を、此大なる建築物中の多數の室を巡視し、幾分の心に叶ひしものは説明を聞かざるべからず、又一方には知人又は相思の友と樂しき話もふさざるべからず、一寸「アユフエー」にて腹も造らざるべからず、而も二ヶの講堂にては八時より十時半までも引續きて代る替る十五分間宛の「プロエクトチオン」を用ひたる「デモンストラチオン」あり、責めては一度かりさも聽聞せざるべからず、然るに此十五分の「デモンストラチオン」は、「アログラム」に記載する如く正確に十五分にて終るにあらず、何時が代り目にあるか知れず、左りとて一演説が始まれば戸を締めて最早一人も入場せしめず、又實際入るゝの餘地もなし、故に此演説を聞かんとする人は、凡そ代り目と思ふ十分も前から入り口の前に立ちて、一講演の終りて先客の出でたる時を待ちて入場するの有機なれば、講堂の入り口は何時も人の山をふし、予の如きも講演の順番來りて講堂に入らんとするも中々困難ありき、又講堂（四百人位を容れ得るからん）の中は、誰の講演の時も満員にて暑きと甚だし、特に予の講演の時は演説は兎も角も、黄色小僧がドンふ口をキクカ見て遣れさ云ふ連中のドン／＼入り込み、特に若き連中至つて多く、ピツシ入り込みの中にて強力の電氣を用ゆるため、其熱丈けにて、青年や令嬢の顔を拜まざるも大抵は參る程にて、特に湯の甚だしかりしには閉口せり。

予は自己の二回の講演のために一時間以上を費せしを以て、充分各部の状況を窺ふ能はず、特に化學部には一寸も足を入るゝと能はざりしを以て、各部に涉りて詳細に通信し得ざるを遺憾とす、假令予が自己の講演を有せざりしとするも、此全部を概括して要領を得たる記事を作らんことは到底なし能はざる所にして、恐く何人にも出來ざることと信ず、現に其裏門の新聞記者など中々勉強したるならんも、此く短時間に廣き場處を種類多

きこととて、殆其要を記することすら出来ざりしからんと思はれし。

學術的の方は右の通りとして、サテ娯樂的の方如何と云ふに、其設備殆ど皆無かりと云ふも過言にあらず、「ムゼウム」(博物館)中央の光線室(大動物を陳列する所)の後方に小き「アエフエー」を設けて冷めたまき少々の飲料、例ばビール、リモナーデ、ワイン、アイスクリーム等を賣り、客は一々任意に買ひ求めて饑渴を醫するに過ぎず、實に會よりは學問知識を御馳走するのみにして、茶一杯も饗應せず、Mit Wissenschaft allein kann man doch nicht leben (學問だけでは活けて居れない)なごの小言も耳にせり、又一二の婦人は予に向ひて『かゝる學術的會合に「ゲゼルシャフト、トアレット」を着て來いきは少々酷だ』とコホシ居たり、思ふに案内狀に「ゲゼルシャフトアンツィグ」を着て來ひさあるから、一寸した御馳走のあるとからんと、夕食をなさずして來りし人九十九%位はありしからん、又此「リヒトハルレ」は餘り小かりと云ふにあらざるも、何分多數の人込にて椅子など到底引き足らず、妙齡の婦女の象の股の下に腰打ち掛けて「リモナーデ」を飲み、河馬の腹に跨たれて「パン」を嚼る光景など、普通の會にては到底見られざる圖ありき。

素より學會の事業されば接待饗應等行き届かずとも非難すべきにあらず、又爲に不快を感じたる人もふかりしからんも、是れ必竟幹事に於て特に初會のともあり、又是れ迄かゝる會を實見したる人少く、特に學術的方面の準備にのみ熱申せし爲他の方面に於て手の届かざりしものあるべく、現に折角高尙「ハイカラ」に出来上りし「プログラム」も、漸く會場にて始めて渡されしため、會衆は自己の興味を感じ短時間に見得る丈の品を選擇の餘裕なく、立派なる「プログラム」を手にしおがら、何處より何處へ廻りて望みの物を見得るやを知るも困難ありしは確かあり、是は「ゲネラルアンツィゲル」紙の云ふ如く、「プログラム」を前日より市中にて公然販賣するか、又は案内狀と共に豫め發送交附せば宜しかりしからん、又一般に世間

の同情を起さしめ、會員をも増加し、寄附者の出来る様になし、今少し會として愛想ある様なしたらば長かりからんと思はれたり。

要するに供覧の準備は遺憾なく、又會況の盛なりしとは恐くは發起者さへも豫想せざりし所あるべく、概して十分の成効たりしこと疑ふし。此くの如くにして一般人士の學問上の興味を鼓吹し學術の興味さ其實價に就き一般の觀念を進むるは單に一般人士從て社會の利益あるのみならず、學問自己に取りても協會に取りても亦非常の利益と云ふべし、日本に於ても大學に講習會などの起りしは賀すべく、通俗講演筆の益盛ならんとは尤も望ましきにして、特に講演のみならず、成るべく實示的にして女子にも理解し得らるゝ様にし、茶の一杯も水の一皿も出だして、彼等をして樂み愉快の中に學問の話を聞かしたる様かさんとを切望するものあり。

記者曰、同日秦氏は自己の研究し居らるゝ棋毒新藥劑の効顯に就き、九時十時の二回「プロエクタオン」を用ひて「デモンストラチオン」をふしつゝ講演して、聽衆の非常なる喝采を博せられたり、氏の演説は、氏等の研究の今凡そ何の位まで進歩せるや、又素人に向つて何の位の處まで云ひ得るやを知るに足るものにて、先づ本藥か、エールリツヒ氏によりて發見せられし順序より説き起し、本藥の主治たる再歸熱及棋毒の病性を説き、次て試験的に接種せし動物に於ける此二病が最確實完全に此新藥によりて治するを叙し、最後に人體に對する今日までの實驗を述べて曰「再歸熱に對しては、露都のイウエルゼン Iversen 氏が五十二人に使用せるに、九十二%は一回の注射にて再發なく速に治癒し、殘りの八%は再發せしも其經過は甚だ輕かりき、而して此再發は氏が最初の試験に於て極めて少量に用ひし患者に來しものあり、秦氏は該藥を一回靜脈内に注射し毎時血液を検査せしに、四時間の後には既に血中に一の「スピリルレン」をも見ざりしと云ふ有益なる一例を報告せしが、是に依るも該藥が如何に強く且速に人體中の螺旋菌に作用するかを知るべし、人の棋毒に對しては今日までに四百人に

用ひられしか、何れも不快なる副作用の起らんとを恐れて極めて少量に用ひられしに拘はらず、各病院に於てなされし臨床上の實驗にては、一回の注射にて梅毒の甚だ速に治癒すると、及其際不快なる副作用の起らざるとを確知するを得たり、即本藥によりて從來他の藥劑にて尙ほ決して見ざりし治癒を得たるものなり、然れども今日まで用ひし如き少量にて眞に完全に永久的の治癒を得るや、或はかゝる完全永久の治癒を得るには尙大量を用ひざるべからざるや、是を後日に驗せざるべからず云々』

▲梅毒新治療薬に關し秦氏の大阪毎日

新聞通信員に贈りし書面

梅毒新治療薬に關し在奥國維納の大阪毎日新聞の通信員ユリユウス、フライ氏の間に對し、秦佐八郎氏が贈答せし書面は、該薬に關し幾分の消息を知るに足るを以て左に轉載す。

エーリツ博士の意見にかゝる新薬の件につき御問合の義承知致候該新薬は尙研究中の者にして未だ學會にも單に概畧の豫報をふせるのみに有之隨ふて普通新聞に掲ぐるは稍早きに過ぐるかに存せられ候も近時歐洲各國の大小各新聞既に百餘に傳へられ候者あれば我母國の毎日新聞通信員たる貴下の御問合せにより概要を御報致すは小生の敢て辭せざる處に有之候

化學的療法の研究はエーリツ博士 (Geheime Prof. Ehrlich) が既に五六年來盡力せられたるものにして既に阿弗利加に於ける睡眠病に對する有効なる新薬も發見せられ居候同氏は此種の研究の爲め富家の富豪スパイヤー家の寄附設備に係るゲオルグ、スパイヤー、ハウス (Georg Steyer Haus) と稱する研究所に所長として研究を指導せられ其化學部にて氏の創意にかゝる種々の新化合物を造らしめ其新化合物の生理學部に於て種々の疾患に對し試験せしめられ居候小生は昨春來同研究所の生理學部に入りて種々の螺旋狀菌 (スピロヘーテ) と稱する一屬) に依て發

する疾患即再歸熱梅毒等に對する有効なる藥品を發見する目的を以て試験に從事する事を命ぜられ同博士の熱心懇篤なる指導の下に同博士製品は勿論其他外部に於て製造せられたる數百種の化合物に就て無數の研究を行へる結果四五の有効なる藥品を見出し候其内最も良好なりと認め現に御承知の通り患者に就て研究するに至りたる者は同研究所にて化學者ベルトハイム氏の (Dr. Bartheim) の製出せる Dioxymidousenban-21 に有之候今日各新聞にて Ehrlich's 606 と稱し候は同博士の製品中六百六號に有之候爲め又秦製劑 Hata Preparation と稱する報告も有之候へ共これ等は單に短き名を用ひんとする爲めふらんも決して正當なる名稱に無之候エーリツ博士より何分の命名有之候迄は前記の化學者「アオキシアミドアルゼノベンツオール」なる名の用ひられん事を望み候

動物試験に於て再歸熱にも鳥類の螺旋狀菌にも亦梅毒にも頗る顯著なる効を奏し動物の中毒するに足らざる遙かの少量を一回注射して直ちに寄生體を撲殺し隨ふて疾病を治癒せしめ得る事確實に有之候尙組育のフレンキナー氏の試験に徴するに類似の寄生體に因するフランペシーにも有効なる事相知れ申候  
實際の患者に用ひられたる經驗はロシヤに於て再歸熱患者五十名許に應用せられたるを始めとし候其結果頗る良好にして單に一箇の注射にて再發なく全治せるもの九十パーセントに有之候梅毒患者に就ての研究は今日凡そ千名位に有之昨今は各國にて日々盛んに試験せられ候も報告未着にて總計數確に知れ不申候小生自ら患者に用ひたるものは僅かに二十名許に候故患者に於ける實際の効果に就て未だ確する事は申し難く候殊に梅毒は一回治癒せる如きものも數月數年の後再發し來る者に有之候故本劑の効果に就て正確なる判定を下し得るは尙數年の後なるべしと存候唯今日迄に信據すべき臨床家の實驗せる成績を綜合せば凡そ左の如くに

有之候

一、梅毒の第一期第二期第三期を論せず本劑を用ひて只一回注射すれば著しく速に治癒する事

一、今日迄の實驗にては注射局處の疼痛數日間來る事と多少發熱及び心悸昂進を來たす事の外持續性の不快なる副作用を見ざる事

一、一回注射せる後數週間内に患者の多數に於て梅毒特有の血液反應即ちリツセルマン氏反應消失する事

但し勿論人に應用するは尙初めに有之候爲め分量も注意して少量にて經驗せられ居候へば現に治癒せる如きものも果して全治せる者あるや將來再發を來すやば計難く候現に極めて最初の試験せられし患者即ち最少量を用ゐられたる患者には少數の再發せる者有之候再發し得ざる様即ち理想的全治を得ざれば本劑の目的を達せる者に無之此目的を達するに必要なる量は何程を要するや人體は果して此分量を一回に注射せられて能くこれに堪ゆるや等は尙年數を要して決定せらるべき問題に有之候

兎も角も一面の治療を加へて本劑の如く著しく梅毒性病變の退却する藥劑は從來無之かりしと云ふ事は確言し得へしと存候

右概要御函答申上候本研究にして幸に世に眞獻する處ありとせばエールリツ博士の成績にして尙「スパイヤール、ハウス」は其設立の趣旨に叶ひたる名譽を負ふべく候小生は只其一小部分に對し微力を致したるに過ぎざる次第に有之候事既に前に述べたる如くに有之候故世の誤解無之様御記載を願度候早々敬具

● エールリツ博士の秦氏新劑の盛行と

其使用法の改良進歩

在獨の秦氏より七月十六日附本月六月六日着にて傳染病研究所技師醫學博士志

賀潔氏に寄せられたる信書に依れば、エールリツ博士及秦氏の新劑は、其後歐洲各地の醫學者間に盛に試用せられ、其各地より「スパイヤール、ハウス」に向て、該藥を請求し來る數は實に夥だしく、到底十分之れに應ずると能はざるの狀況なり、目下日々發送配布し得る分量は、二百人分位あるも、注文は毎に之れに數倍せり、從て發送濟の分は、何れも既に夫れ、試用し居らるゝものと見て差支ふかるべきも、假りに其半が適當に使用せらるゝものとすも、目下一日に少くも百人の患者に注射せられ居る筈ありき。又今日までエールリツ博士の手下に集まりし該藥の梅毒に對する治験例は已に一千五百餘に達し、何れも成績良好なりと云ふ。

志賀博士は語て曰、六〇六號の注射によりて劇痛を發するは、隨に該新劑の一欠點にして、之れをしも除くを得ば、本劑は眞に完全無缺と云ふを得ん、然るに其後に於ける種々ある實驗の結果は、一定の溶解法を施せば、無痛にして且從來よりも少量の液量にて、從來と同一の効果を收め得るに至れるを以て、是れ將た使用上の一大進歩と見るべく、世人は舊に倍して同劑に謳歌するに至るべし、元來かゝる有力なる新劑の發見せらるゝや、之れに對する賛辭の盛あると共に、一方に於ては又幾分の非難あるは世の常にして、中には些々たる欠點を指摘して、本來の大効をも没せんとするもあり、本劑に就きて、其一と我が治療界に現はるゝや、或は注射後の疼痛を云爲し、或は其再發を防ぎ得るや否やは疑問なれば未だ遽に從來の療法に比して優秀あるとを斷定すべからずと唱ふる者あり、然るに元々注射後の疼痛などの副作用は、學問上決して主たる問題にあらず、從て之によりて本劑の價値を上下するに足らず、況や、此くの如き些々たる副作用は、之れを除きし得るの工夫敢て難しとせざるに於ておや、又再發を以て本劑の一大欠點と云ふは、かゝる方面の研究に經驗なき輕卒ある人の誤想あるべし、予は既に六〇六號を手にし時、「トリパノール」病に對する實驗研究の経験より、本劑にて完成の治癒を得んには、

恐らく一回の注射にては十分ならざるべく、必ず第二回の注射を必要とするに至るべしと思惟したり、實際に於て一回の注射によりて再發を防ぎ能はずんば、二回三回の注射も亦敢て否むべからざるにあらずや、況や人體に對する分量の如きは、目下本劑に對する研究の主要問題に屬し、是れまで用ひられし分量は、一意その副作用を人體に及ぼす悪影響を恐れ、極

めて少量ならざるを得ざりしを以て、今後研究の進むに従ひ、安して今日より大量を用ふるに至らば、能く再發を防ぎ得るの望あるをや、故に予は世人の猥りに再發を豫想して本劑の効力を云爲せずして、速に研究を重ねて、本劑の使用其當を得ば、再發も亦十分防ぎ得るものたるを信するに至らんことを切望す云々。

藥品 驗 査 便 覽 (其二) J. Y 生

硼 酸

Acidum boricum

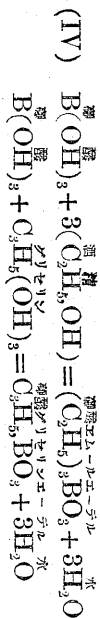
H<sub>3</sub>BO<sub>3</sub> = 62.03

實性反應

本品ヲ百度ニ熱スレバ水ヲ失ヒテ異性硼酸トナル (I) 尙之ヲ熱シテ百四十度乃至百五十度ニ至レバ更ニ水ヲ失ヒテ四硼酸ヲ生成ス (II) 尙熾約ニ至レバ空ヲ水分ヲ失フ無水硼酸(焦性硼酸)ニ變ヌ (III)

- (I)  $B(OH)_3 = HBO_2 + H_2O$   
水 蒸 氣 異性硼酸
- (II)  $4HBO_2 = H_2B_4O_7 + H_2O$   
水 蒸 氣 異性硼酸 四硼酸
- (III)  $H_2B_4O_7 = 2B_2O_3 + H_2O$   
水 蒸 氣 異性硼酸 焦性硼酸

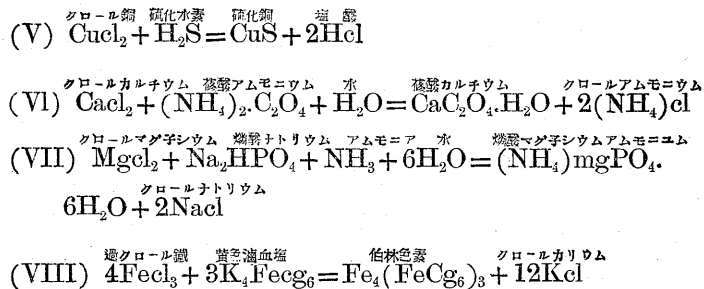
本品ノ酒精溶液(1:50)又ハブクリセリソ溶液(1:40)ハ線偏呈シテ燃燒ス之容易ク揮散スルモノナル即チ硼酸エチーアルモノアル成ハ硼酸カ



試 験

本品ノ水溶液(1:50)ニ硫化水素水ヲ  
加フルニ變化スヘカラズ(V)又蔭酸  
アムモニウム溶液ニ由テ變化セズ  
(VI)又アムモニア水ヲ加ヘタル後磷  
酸ナトリウム溶液ヲ加フルニ變化ス  
ベカラズ(VII)  
又黄色血滴鹽溶液ニ由テ變色ス可  
ラズ(VIII)

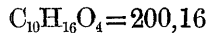
化 學 方 程 式



夾 雜 質

重金屬  
カルシウム鹽  
マグネシウム鹽  
鐵鹽類

樟 腦 酸  
Acidum Camphoricum



實性反應 本品ハ特異ト稱スベキ實性反應ナクク 熔融点 186°

試 験

本品ノ冷飽和水溶液 2ccmニ硫酸  
2ccmヲ加ヘ后硫酸亞酸化鐵溶液ヲ  
加ヘテ液層トナスニ其接界ニ於テ類  
褐色ノ輪帶ヲ生ズベカラズ  
本品ヲ熱スレバ無水樟腦酸ノ白色蒸  
氣ヲ發生シテ全ク揮散ス(I)

化 學 方 程 式



夾 雜 物

硝 酸



乾燥セル本品ノ1gヲ中和スルニハ定規カリ液 10ccm ヲ要ス (II)



石 炭 酸

Acidum Carbolicum

C<sub>6</sub>H<sub>6</sub>O=94,06

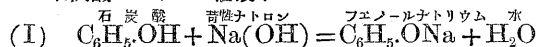
熔 融 點 40°—42°

注意シテ貯フベシ

沸 騰 點 178°—182°

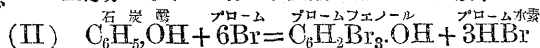
一回ノ極量 0,1g 一日ノ極量 0,3g

石炭酸ハナトロン瀘液中ニハフェノールナトリウムヲ生成シテ著シク溶解ス (I)



實性反應

五万分ノ水中ニ一分ノ石炭酸ヲ加ヘタル溶液中ニブローム水ヲ加フルモ尙長ク白色絮狀ノ三クロームフェノールノ沈澱ヲ生ズ (II)



ク ロ ー ム 酸

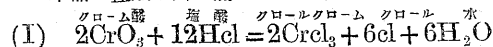
Acidum Chromicum

CrO<sub>3</sub>=100,5

注意シテ貯フ可シ

實性反應

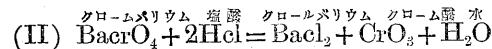
本品ヲ鹽酸ト共ニ熱スレバクロールクロームヲ生成シクロールヲ發生ス (I)



試 驗

本品ノ水溶液 (1:100) ニ鹽酸ヲ和シタルモノハ硝酸バリウム溶液ニ由テ

化 學 方 程 式



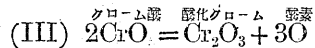
夾 雜 物

硫酸(但シ少量ヲ許容)

微ニ濁濁ヲ起スニ過クヘカラズ (茲ニ鹽酸ヲ和スルハ困難ニ溶解スベキクロームバリウムノ構成ヲ避クルニアリ)(II)

本品 0,2g チ熾灼スルニ酸素ヲ放ツ

(III) 此殘渣ハ水ニ溶解スベキ物質ヲ含有スベカラズ



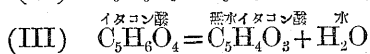
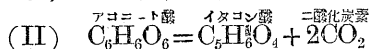
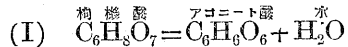
重クローム酸カリウム又ハ酸性硫酸カリウム

枸 櫞 酸

Acidum citricum

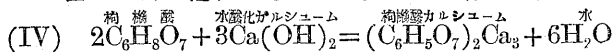


本品ハ高温ニ於テ熔融シ次ニ炭化ス百度ノ熱ニ於テ全ク水分ヲ消失シ百七十五度ニ於テ水ヲ生ジアコニート酸ニ變ズ(I) 尙此以上ニ熱スレバ破壊シテイタコン酸及ビ二酸化炭素トナリ (II) 更ニ尙熱スレバ水ヲ失ヒ無水イタコン酸ヲ生成ス (III)

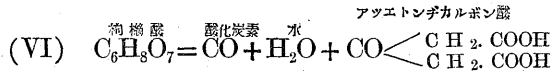


實性反應

本品ノ水溶液(1:10) 1ccmニ40乃至50ccmノ石灰水ヲ混スルニ澄明ニ止マルベシ之ヲ一分時間煮沸スレバ白色絮狀ノ沈澱ヲ析出ス沈澱ハ冷時ヨリモ熱時ニ溶解シ難ケレバナリ(IV) 此沈澱ヲ閉塞セル器中ニ於テ三時間以内冷却スレバ再ビ溶解ス此際特ニ閉塞セル器中ニ放置スル所以ハ過剩ノ石灰水ハ氣中ノ炭酸ニ觸レ炭酸カルシウムヲ析出スルガ故ナリ(V)



枸橼酸ヲ硫酸ト共ニ温ムルトキハ酸化炭素及水ニ分解シ傍ラカルボン酸ヲ構成ス (VI)

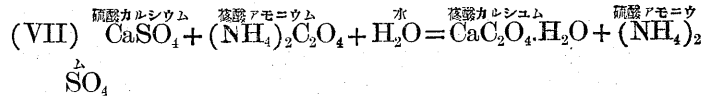


試 験

本品ノ水溶液(1:10)ニ蔘酸アモニウム溶液ヲ加フルニ僅微ノ蛋白石濁ヲ起スニ過クベカラズ (VII)

本品 5g ナ 10ccm ノ水ニ溶解シアモニヤ水ヲ以テ弱酸性ニ至ラシムレバ枸橼酸アモニウムヲ構成ス (C<sub>6</sub>H<sub>5</sub>O<sub>5</sub>(NH)<sub>3</sub>) 此溶液ニ硫化水素水ヲ加フルニ變化スベカラズ

化 學 方 程 式



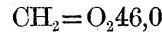
夾 雜 物

カルシウム鹽

重金属

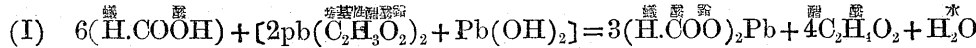
蟻 酸

Acidum formicicum

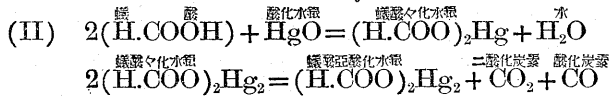


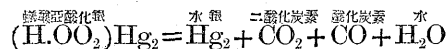
實性反應

本品ニ鉛醋ヲ加フレバ白色結晶性ノ蟻酸鉛ノ沈澱ヲ生ズ (I)



本品ノ水溶液(1:6)ニ黄色酸化汞ヲ加ヘ飽和シテ得タル澄清液ヲ熱スレバ瓦斯ヲ發生シツ、漸次金屬水銀ヲ析出ス (II)



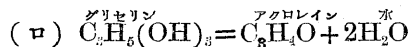
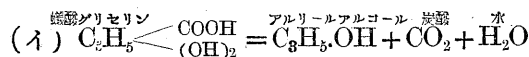
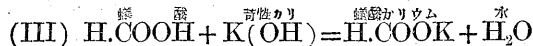


### 試 験

蟻酸ハ加里瀝液ヲ以テ中和スレバ蟻酸カリウムヲ生ズ (III) 此際焦臭又ハ刺戟臭ヲ放ツベカラズ

本品ノ水溶液 (1:6) ニアモニア水ヲ加ヘテ中和スレバ蟻酸アンモニウム [H.COO (NH<sub>4</sub>)] ヲ生ズ之ニ化水素水ヲ加フルニ變化スベカラズ (IV) 1ccmノ蟻酸ニ5ccmノ水ヲ加ヘ之ニ1.5gノ黄色酸化汞ヲ加ヘ反覆振盪シツ、水浴上ニ温ムルトキハ金屬水銀ヲ折出シ且ツ、酸化炭素ヲ發生スベシ (V) 此際瓦斯ヲ發生セザルニ至ルトキハ溶液ハ中性ノ反應ヲ呈スベシ 本品 5ccmハ28乃至29ccmノ定規カリ瀝液ニヨリ中和スベシ

### 化 學 方 程 式



### 夾 雜 物

焦臭性物質、アルリールアルコール又ハアクロレイン  
アルリールアルコールハ本品ヲ製スルノ際蟻酸グリセリンノ強熱ヲ得ル際化生シ(イ)アクロレインハ本品ヲ製スル際即チグリセリンノ強熱ヲ得ル際化生ス(ロ)

重金屬。

醋酸 (醋酸々化汞ヲ溶出スルヲ以テ酸性反應ヲ呈ス)(ハ)

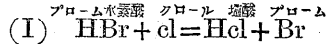
ブ ロ ー ム 水 素 酸

Acidum hgdrobromicum

HBr=81,0 光ヲ遮リ貯フ可シ

實性反應

本品ニクロール水ヲ加ヘクロ、フオルムト共ニ振盪スルトキハ褐黄色ヲ呈ス (I)



本品ニ硝酸銀溶液ヲ加フレバ類黄白色ノ沈澱ヲ生ズ此沈澱ハアムモニア水ニ僅ニ溶解ス (II)



試 験

本品ニ五容量ノ水ヲ加ヘ稀薄セル液  
 ナアムモニア水ヲ以テ殆ンド全ク中  
 和スルニ至レバブロームアンモニウ  
 ム (NH<sub>4</sub> Br) ヲ生ズ此溶液ニ硫化水  
 素水ヲ加フル變化スベカラズ (III)  
 此中和液ニ同量ノ クロ、フオルムヲ  
 加ヘ振盪スルニ黄色ヲ呈スベカラズ  
 又豫メ二三滴ノ過クロール鐵溶液ヲ  
 加ヘタル後タリトモ紫色ヲ呈スベカ  
 ラズ  
 ブローム水素酸 3g ニ水100ccmヲ加  
 ヘタル混液 10ccmニアムモニア水ヲ

化 學 方 程 式



夾 雜 物

重金属

游离ブローム

沃度水素酸

加へ綿密ニ中和スレバブロームアン  
モニウム (NH<sub>4</sub> Br) ナ生ズ之ニ二三  
滴ノクローム酸カリウム液ヲ加へ之  
ニ十分定規硝酸銀液ヲ加フルニ多ク  
トモ9,3ccmニヨリ持續スル赤色ヲ呈

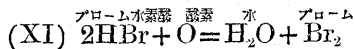
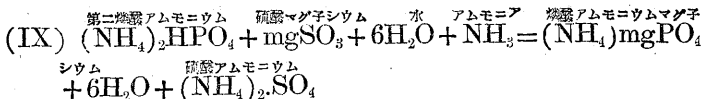
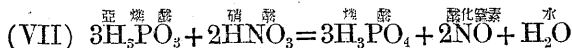
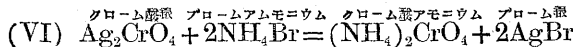
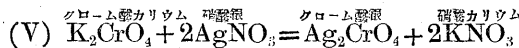
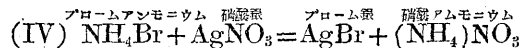
スベシ (IV)

(此際同時ニクローム酸銀ノ赤色沈  
澱ヲ生ズ(V) 然レトモブロームアム  
モニウムノ存在ニ於テ攪拌スルトキ  
ハ再ビ消失シテブローム銀ヲ構成ス  
(VI)

1ccmノブローム水素酸ニ1ccmノ硝  
酸ヲ加へ煮沸スルニ至ル迄熱シ冷後  
アムモニア水ヲ加ヘテ過飽シ後硫酸  
マグネシウムヲ加ヘ永ク放置スルニ  
變化スベカラズ (VII, VIII, IX)

5ccmノブローム水素酸ヲ中和スル  
ニハ18,7ccmノ定規カリ液ヲ要ス  
(X)

本品ハ日光及大氣ニ觸ルレバ水及ブ  
ロームヲ化生シ茲ニ生シタルブロー  
ムハ本酸中ニ溶解シテ黄色ヲ呈ス  
(XI)



亞磷酸又ハ磷酸

鹽 酸

Acidum hydrochloricum

Hcl=36,46

壺中ニ容レ密栓シ注意シテ貯フベシ

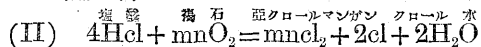
比 重 1.152

實性反應

本品ハ硝酸銀溶液ニ由リ白色乾酪樣ノクロール銀ノ沈澱ヲ生ジ此沈澱ハアムモコア水ニ容易ク溶解ス (I)



本品ニ褐石ヲ加ヘ温ムルトキハクロールヲ發生シ亞クロールマンガン及水ヲ構成ス (II)



試 驗

本品 1ccmニ亞クロール錫溶液 3ccm  
ヲ混和シ壹時間放置スルニ暗色ヲ呈  
スベカラズ (III)

本品ニ五容量ノ水ヲ加ヘテ稀釋シア  
ムモニア水ヲ以テ殆ソド中和スレバ

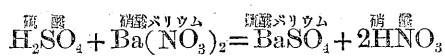
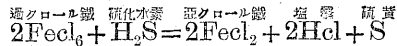
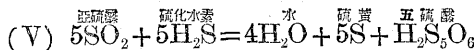
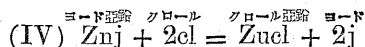
此際クロールアンモニウム(NH<sub>4</sub> cl)  
ヲ生ズ此ニ沃度亞鉛濃粉溶液ヲ加フ

ルニ直ニ藍變スベカラズ (IV) 又硫

化水素水ニ由テ變化セズ (V) 又硝

酸バリウム溶液ニ由テ五分時間以內  
ニ變化スベカラズヨード溶液ヲ加ヘ

化 學 方 程 式



夾 雜 物

砒化物

游離クロール

游離クロール、二酸化硫黃(亞硫酸)

過クロール鐵

テ淡黄色トナシタル後モ亦然リ(VI)

本品 5ccm ナ中和スルニハ定規カリ

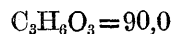
滴液 38,5ccm ナ要スベシ此際クロ-

ルカリウム及ビ水ヲ構成ス (VII)



### 乳 酸

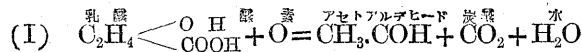
Acidum lacticum



比 重 1,21—1,22

#### 實性反應

本品ニ過マンガン酸カリウム溶液ヲ加ヘ温ムレバアルデヒドノ臭氣ヲ放ツ (I) 之レ過マンザン酸カリウム中ノ酸素ヲ吸収シアルデヒドヲ構成スルヲ以テナリ



#### 試 験

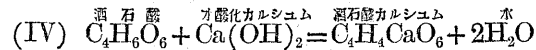
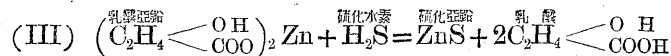
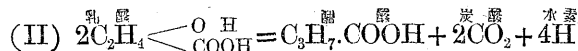
本品ハ微温ニ於テモ脂肪酸ノ臭氣ヲ放ツ可カラズ (II)

本品ノ水溶液(1:10)ハ硫化水素水ニ依テ變化スベカラズ (III)

本品ニ石灰水ヲ過飽スルニ白色ノ沈澱ヲ生スベカラズ (IV)

熱スルモ亦然リ

#### 化 學 方 程 式



#### 夾 雜 物

酪 酸

重金屬(銅、鉛ハ暗色亞鉛ハ白色)

漆 酸 又 ハ 酒 石 酸

枸 橛 酸

(以下次報)



學 會

●北越醫學會總會

北越醫學會春期總會は、去る七月三日午後二時より、新潟縣佐渡郡兩津町裏かる安照寺に開かる、場内には彩旗を吊し、柱を杉葉に蔽ふて蒲酒ふる裝飾を施したり、新潟よりは會頭たる池原醫學專門學校長を始め、富田博士、黒岩、菅沼の二教授、幹事村山敬始氏、岡田縣技手等の諸氏渡航出席せられ、外に地方幹事竹中成憲氏、下山郡醫師會長其他同郡の會員數十名出席し先づ竹中學士開會の挨拶をふし、且つ石黒男爵其他の祝辭祝電を披露し、次に池原會頭は開會の式辭を述べ村山幹事の會報報告あり、役員改選は下山堯安氏の發議によりて、會頭に前會頭を推薦することとし、池原學士就任の挨拶を述べ、次回の春期總會はこれを中頸城郡高田町に開催することに定め、次に下山氏再び登壇郡醫師會を代表して祝辭を述べ、終つて順次左の演説あり

- 一、「トラホーム」性角膜「パンヌス」の病理組織に就て  
醫學士 菅 定 沼 男氏
- 一、上顎齶齶膿症に就て  
黒岩 福三 郎氏
- 一、咽頭良性腫瘍の標本供覽  
同 氏
- 一、局所麻酔  
醫學博士 富田 忠太郎氏

終つて巴樓に懇親の宴を張る、總會出席者の外に、渡邊相川警察署長、成澤兩津分署長、齋藤同町長其他同地の官民有志等を加へて、凡て四十餘名の出席者あり、頗る盛況かりき、又新潟より來會せし諸氏は、翌日郡内の名

勝古跡を跋渉して歸航せられたり云ふ。

●金澤軍醫分團研究會 八月八日午後一時半金澤信行社に於て開會出席者長宗我部分團長以下二十名左記數番の講演あり午後四時半閉會せり

- 一歩兵第七聯隊ノ赤痢ニ就テ  
太田 一 等軍醫
- 追加  
長宗我部分團長
- 一胃潰瘍ノ一例  
坪田 三 等軍醫
- 一疳及其療法ニ就テ  
吉澤 三 等軍醫
- 討論 田中二等軍醫、松村二等軍醫正、長宗我部分團長  
辰巳 三 等軍醫
- 一改正視力表ニ對スル視力ニ就テ  
田中 三 等藥劑官
- 一「モルヒネ」ノ裁判的試験ニ就テ  
長宗我部分團長

講 評

●金澤醫學會 去る八月十日午後七時より金澤醫學專門學校内科教室に於て開催高安會長長宗我部分團長以下出席左の演説ありたり

- 一急性脊髄炎ノ二例  
小原 二 等軍醫
- 一聾啞者ニ對スル均衡迷路機能障礙調査成績  
加納 三 等軍醫正
- 一陰囊ノ大象皮腫患者供覽  
田中 一 次 郎
- 一無結緊動脈鉗子ノ供覽  
飯森 益 太 郎



# 内地雜報

## ●學位論文題●

今回學位を授けられたる高木、今村及西崎(藥學)三氏の學位請求論文題左の如し。

東京府華族 高木兼二氏

一、腎臓の桿狀構造に就て(獨文)

一、腦髓の破傷風毒素結合物質に就て(獨文)

一、赤血球の「リシノゲン」に關する知見(獨文)

一、石神「ツベルクロトキソイザン」の實驗的研究(英文)

福島縣士族正七位 今村 保氏

一、四口熱寄生蟲に就て(邦文)

一、笹子墜道内空氣の炭酸瓦斯(邦文)

一、「ペスト」菌に就て二三の研究(獨文)

一、燐光菌に就て(獨文)

岡山縣平民從五位 西崎弘太郎氏

一、トップ氏沃度定量法及其價値に就て(邦文)

一、清酒中の乳酸及其定量法

一、麥酒及清酒中のフルフロール竝に清酒中のフーゼル油の就て(邦文)

一、「タカチアスターゼ」及麴の澱粉消化素に就て

因に三氏の簡歴左の如し

▲今村博士 福島縣の人、去明治三十一年の東大出身也、出で、同大學

助手として衛生學教室に勤務し、同三十三年助教に累進し、「ペスト」

「マラリア」等に關する有益の業務を公にし、同三十八年、職を辭し韓國釜山公立病院長として赴任し、轉じて今は同國龍山病院長たり、温厚篤學を以て夙に斯界に知らる

▲高木博士 實に高木男爵の第二子也、歳十七にして遠く英京倫敦に航し、進んで同地大學に醫學を修め、在學中學業品行共に優良の故を以て賞牌を受くるも前後二回、學卒へて猶ほ獨佛兩國に至り、斯學の淵奥を極め、昨年五月歸朝し、現に慈惠會醫院醫學專門學校に教鞭を執り、一方に東京病院内科主任あり、氏年齒纔かに三十、從來嘗て斯る年少の博士ありしといふ、以て氏が尋常一様の人ならざるを知るべし

▲西崎博士 横濱の人、去る二十九年東大出身の藥學士也、仙臺第二高等學校教授を経て、現に横濱衛生試驗所長たり

## ●試驗廢止と受験者

醫師法制定以後は醫術開業試驗受験者は漸次減少し、廢止の直前に及びては、受験少數試験事務所はたんに閑散に苦むべしとは、八年後廢止を號せる當時の豫想ありしに、四十七年も本年を除きては最早四ヶ年の後さかり、猶豫期間の半に達したるにも不拘、當初の豫想に違ひ、受験者殊に前期受験者は左程に減少せず、試みに醫師法制定の三十九年前後の前期受験者數を示せば

三十七年一回	三、一六六	同	二、〇七〇
三十八年一回	二、三七一	同	二、〇二九
三十九年一回	二、三三三	同	一、九九七
四〇年一回	二、五六一	同	二、二四一
四一年一回	二、五一三	同	二、〇七三
四二年一回	二、三〇六	同	一、九七八

斯く廢止宣告前と後とは敢て大なる差異を見ず、是れ廢止を聞いて受験生は一生懸命さあり、毎年第一回にも第二回にも應試する即ち從來より受験の頻度元まりしにも因るべしと雖も、其の大部分は新出願者の減少せざるに歸すべき現象あり。

右の如く廢止は目前に迫り乍ら、斯く受験者減少せざるは、法律には嚴に四十七年廢止を規定したりと雖も、其の期に及び廢止延期若くは他の受験者救済策の思慮に沿するを得べしとの僥倖心彼等受験者に存するためからざる乎、殊に現下東都醫界の話柄とあり居る東京醫會の企劃の如き、又私立醫學校當事者の如きも盛んに或種恩典の設けらるべきを吹聴し居る等にて益々受験者の僥倖心を助長せしむるものあり、故に文部省たるもの、速に省令若くは其他の方法の下に醫術開業試験は斯々の方法經過を以て四十七年には斷然廢止すべきことを一般に告示すること緊急の要務あるべし

●●●●●  
醫術開業試験料

明治三十三年以來の開業受験料は左の如し。

明治三十三年	七萬六千六百二十六圓
同 三十四年	七萬六千八百五十四圓
同 三十五年	八萬二千八百四十八圓
同 三十六年	八萬四千〇十八圓
同 三十七年	七萬二千六百四十二圓
同 三十八年	六萬八千五百六十二圓
同 三十九年	七萬三千八百八十八圓
同 四十年	九萬四千九百九十四圓
同 四十一年	八萬九千九百〇六圓
同 四十二年	九萬二千二百二十四圓

永樂病院費即ち試験費用は毎年七萬圓内外なれば政府は三十八年を除く外、年々試験にて少しづつ、差引儲けをふしつゝあるあり。

(内地雜報)

●●●●●  
醫師の増減 昨四十二年度に於ける内務省醫籍に登録及抹消せし醫師の増減は左の如くなり。

●●●●●  
死亡廢謄轉業者

千二十二入  
千四百三十一入

●●●●●  
登籍者

ふり即ち抹消されしものより新に登録せし者が四百九人多し、此外に昨年中醫術開業の權利を得て未だ醫籍に登録の手續をふさざるもの二百十一人あり、故に實際に於て昨一年間に醫師の増加せし数は六百二十人ありといふ、僅々一ケ年の増加數六百二十餘名ありとは驚く可き増加といふべし。又昨年中に試験及第により開業せし者は二百八十一人にして、昨年度出來たる醫師の僅かに一割五分に過ぎずといふ。尙ほ死亡及廢謄轉業者等は、將來は現今より増加する氣遣なく、多少つゞ減少すべければ、此勢を以てせば、十年後は醫師數は非常に増加するに共に、其種類も次第に學校出身者のみとなるべく、従つて資格の劣るものは次第に滿韓地方に赴くに至る可きか、さるにても斯く増加しつゝあるに拘らず、若手其他の地方にありては今日尙醫師不足を告げつゝあり、如斯は眞に醫師が全國人口に比し不足あるにはあらで、都會にのみ醫師の集注するが爲めあるべし、何故に田舎に行かずして、而してセチ辛き世とのみ歎じ、醫師生活困難のみ訴ふるやと當局者は語れり。

●●●●●  
南極探檢糧食問題

白瀬中尉南極探檢將に決行せられんとし、今や其準備に汲々たり、而して國民の熱烈なる同情は、其極に達せんさす。此時に當り、如斯き言をふすは好ましからずと雖も、今や默せんさ欲して黙する能はず、聊中心を披瀝せんさ欲す、蓋此行の成功を希望する事は、決して人後に落つるものにあ

らざれば也。

這般の計畫が、只一斤の勇氣のみを以て成功すべからざる事は、識者を待つて識るべきにあらざる也、一面科學的準備を完備せざる可からざるは勿論の事たり、此點果して如何。

然も他の方面に就ては余は茲に多く述べべき權利を有せず、只先般公表せられたる糧食に就て語らしめよ、白瀬中尉により公表の糧食は左の如し。

(東京朝日新聞八月二日、十八日)

精米百石(一日一人一升宛 味噌百五十貫(一日一人十匁宛) 醬油三十石(一日廿五人一升) 福神漬二千個、果物類罐詰二千個、ビスケット菓子類若干、牛肉罐詰一千五百個、砂糖(太白三百斤中白二百斤砂二百斤黒四百斤) 干魚類(鰹節千本、干鮑三千個、鰻五千枚、ホタテ貝一萬一千個)、昆布若干、餅米五石、小豆一石、大豆一石、軍用パス、氷餅、野菜、道明寺、食鹽、燃料、石油、飯糰釜三組) 及濠洲にて買入る、生牛一頭、別に馬糧として大麥百五十石 壓搾干草二千貫を加ふ。

右の表に案して、余は尤杞憂に堪へざるあり、如斯簡易不十分なる糧食を以てして、約一年間、隊員の健康が、果して保全せらるべきか疑はし、假りに一步を譲り、全體に於て大過おしこするも、余の尤杞憂に堪へざる一事は、余の今迄聞知する所によれば、脚氣豫防に就ては、何等の注意おきこさ之れあり、精米百石は白米にして、少くとも船中に於ては全員普通の米食をふすもの、如し、之れ脚氣發生の危険はなきか。

脚氣は今日も尙依然として未定の關係あり、然りと雖も米少くとも白米との關係に就ては、殆ど疑の餘地なきが如し、其說明の如何は問ふ所にあらず、さらば稍早計の講ありと雖も、比律賓政府が最近に於て白米禁止の訓令を發したる如き、此際冷々に看過すべきにあらずと信ず。

之の時に當り、如期簡單不十分なる糧食を以てして、凡て冒險的契約、換言すれば非衛生的設備の下に、百石の白米を食して、約一年間全員の健康

を企圖す、之れ無謀にあらざるか。吾人は之を不問に付して可ふるか。されば一行がマツクマード灣に到着するに先ち、或は脚氣襲來の爲に、大なる悲劇を演ずる事おきかきや杞憂せるものありときく、之れ必ずしも不祥の豫言のみにあらざる可し、假令如斯に至らずとも、豫防上少しの注意おしこするも、多少の損害を免れざるべし、我國海軍の歴史、二大戦役間の損害、若くは長き航海中に船船内に數々發生せる恐るべき脚氣發生の既往の事實を考ふる時は、余も亦慷慨として恐れざるを得ざるあり。

然らば之を如何にすべきや、思ふに或一派の論者の唱ふる如く、此際米食全廢は最安全なる策あり、聞く上陸後は、一切火食をふさず、道明寺軍用ビスケット等を用ゆと、果して然らば一步進んで他の糧食を大に改良して、米食全廢を斷行のこと、或は得策に非らざる乎。玄米説、糠説、乃至熟米の如き、悉く未定の問題にして、此際決して萬一を饑餓すべきにあらず也、而も尙米食を必要とすか、然らば如何なる分量と性質に於て之を用ふべきか慎重なる研究を要すと信ず。

今や英のスコット大佐は、既に業に同一の程に上り、我も亦既に列國環視の裡に、骰子は正に投げられたるあり、されば余は終に臨み醫界の先覺者特に臨時脚氣調査會が此點に對し、一顧の注意を惜むなからんことを切望に堪へざるあり。(醫海時報抄)

◎慈惠救濟事業の表彰

内務省に於ては全國府縣慈惠救濟事業の功勞ある者百十ヶ所に對し百圓乃至千二百圓宛を下附したるが、此内吾醫界の事業は左の如し。

- 同愛社。東京養育院。精神病慈惠救濟會。日本私立衛生會。東京慈惠會醫院。慰庭園。(以上東京) 施藥院協會(京都) 博愛社。大阪慈善會(大阪)
- 身延臨惠病院(山梨) 花畑施療院(岡山) 回春病院。待勞院(熊本)

●柴田博士の光榮

藥學博士柴田承桂翁は去る一月以來胃瘡に罹り東京小石川小日向臺町の自邸に於て長與胃腸病院長の治療を受居り其危篤に陥れるや偶々天聽に達し去る七月十九日菊花御紋章入銀盃一組下賜の御沙汰あり同日午前九時友人總代として後藤遞相參内の上左の御沙汰書と共に恩賜品を拜受し直ちに病床の博士に傳へたるに「博士は病苦をも厭はず禮服を着用して感涙に咽びつゝ皇居の方を伏拜みて拜受したる由

御沙汰書

藥學博士 柴田承桂

學識超倫専ら著述を業とし後進を誘掖し世用を補益し夙に力を衛生行政の實施に盡し會て日本藥局方編纂の任に當り其功勳からざる趣聞召され特に御紋章附銀盃一組下賜候事

明治四十三年七月十九日

富 内 省

吾人は此機會に於て斯かる稀有の光榮に浴したる博士の經歷を略叙せん翁は尾張藩醫故永坂周二氏の次男にして嘉永二年各古屋市和泉町の邸に生れ彼の刀圭家として將た詩人とし有名なる永坂石塚氏の實弟あるが少時同藩醫柴田龍谿氏の養子とあり養祖父溪浩、養父龍谿共に學者として知られたる其の家風を承け夙に俊才の聞へあり、明治四年藩命に依りて獨逸に留學し柏林醫學校に在ること四ヶ年、衛生行政及び藥局方を研鑽したるが偶々疾を得て七年歸朝し帝國大學教授を経て内務省衛生局御用掛に轉じ専ら同局創設當時の經營に當りしも又々健康上の爲め十二年辭職し後十五年再び衛生上取調への爲め獨逸に赴き在留一ヶ年にして歸朝したるが爾來公職を避けて専ら醫藥學の研究に身を委ね理化學及び藥學に關する著書數十種あり、三十六年博士會議の推薦に依りて藥學博士の學位を受領したるが近

(内地雜報)

年兎角胃部に惱みありて或は胃瘡からずやと氣遣はれつゝありしに本年一月下旬愈々其れと診定せらるゝに至りしよりいふ、翁本年六十一歳、四子あり、長男桂太氏は三十二年理科大學を卒業して植物學を専攻し夙に少壯理學博士として令名あり、次男雄次氏亦四十年卒業の理學士にして共に目下柏林留學中、長女菊子は華族女學校卒業後熊本高工教授工學士三浦鍋太郎氏に嫁し次女元子は自邸にありて専ら乃父の看護に努め居らるゝ由、博士は斯く本邦藥界設拓者の第一人たりしのみならず少時より養父龍谿氏の歌道に堪能ありし感化を受け加ふるに同藩淺野三龍、加藤松園等に隨ひ大に攻究する處あり、老年に及びては宮内省御歌所の坂正臣、大口鯛二、加藤義清等同郷の歌人と交はりて斯道の造詣極めて深く去る四十年宮中歌御會始に際し「新年松」とし／＼に高くあり行く松の上に今年も仰く初日影かふ」の一首を詠進して預選の榮を荷ひ次女元子亦昨年「雪中松」たかむらば雪に埋れて老松のひさもさ高くみゆる庭かふ」の一首にて入選の榮を得たるあり、寔に類稀なる目出度き家門ありといふべし、因に博士の嗜好は和歌の外特に數ふべきものなく煙草は中年迄少しく喫したるも近年之を廢し、酒は少量を用ゆること、兎に角未だ類稀といふにもあらば充分に加療して一日も早く快癒の途を得られたきものあり

●柴田博士と日本藥學會

日本藥學會にては藥學博士柴田承桂翁が上記の如く其の學術上の功績に依り天誥下賜の恩命に接せられたるを藥界全般の榮とし定款第九條に據りて去月廿七日名譽會員に推薦し尙ほ左記祝文を贈呈せし由

貴下は本邦の衛生制度に於ける建設者の一人あり殊に我藥學の今日あるは貴下に負ふ所最多し吾人が常に感謝して措かざる所ありとす聞くが如くんば頃日事天聽に達し優渥なる聖旨を以て天誥恩賜の御沙汰ありたりと貴下の天爵鴻德に加ふるに更にこの光榮を以てす慶喜の至りに堪はず

顧ふに如此は貴下の榮譽たるを與にうの餘光は以て斯界の歴史を燦然とらしめ藥學の獎勵上將來偉大の効果あるものたるを信ぜずんばあらず依て日本藥學會はこの榮典を祝し併て敬謝の微意を表せんが爲に特に評議會を開き全會一致の決議を以て恭く茲に蕪辭を呈す謹言

明治四十三年七月二十九日

日本藥學會會頭

理學博士

藥學博士

長井長義

印

藥學博士 柴田承桂 殿

恸くて同會にては博士の小照、御沙汰書寫、天蓋寫眞并に上記祝文を舶來上質紙に印刷し長井會頭の序詞を添へて美麗なる祝賀號を發行し去四日全會員に頒ちたるが博士の之を見るに及ばずして逝去されしは同會の遺憾とする處あるべし

### 柴田博士逝

病氣危篤の故を以て御紋章附銀盃下賜の榮を荷ひたる日本藥學會名譽會員藥學博士柴田承桂翁は療養終に効を奏せず八月二日午後一時四十分、瀉瀉を以て長逝せられたり、斯界の爲め眞に悼惜に堪はず、葬儀は八月四日午後四時青山齋場に於て佛式に依り執行せられたる答あり

### 故柴田博士の官歴

藥學博士柴田承桂翁の官歴は左の如し

- 明治辛未四月日耳曼留學の儀朝廷へ奉願候處御聞届相成候に付留學申付候事
- 同七年九月補文部省九等出仕
- 同七年十月東京醫學校出勤可致事
- 同八年二月同藥場長心得可相勤事
- 同年四月内務省に雇申付候事
- 同年同月東京醫學校へ雇入候事
- 同九年三月

内務省御用掛兼務申付候事 同年同月衛生局事務取扱申付候事 同年九月東京醫學校五等教授の任を囑し候事 同十一年五月大阪司藥場長申付候事 同十三年十二月日本藥局方編纂委員被仰付候事 同十六年三月御用有之歐洲へ差遣候事 同十七年九月中央衛生會委員被仰付候事 同廿一年四月日本藥局方調査委員を命ず 同廿六年十二月東京帝國大學評議會に於て學位を授くべき學力ありと認め明治卅一年勅令第三百四十四號學位令第二條に依り茲に藥學博士の學位を授く

### 故博士の逸話

- 博士の翻譯 博士は退隱後専ら翻譯にのみ從事して居たが其の譯述の種類は藥學醫學は勿論萬般の學科に亘つて其の譯の精確且つ妥當なるには何人も驚かぬものばふかつた
- 博士の趣味 趣味は全く西洋的で家屋の建築から什器裝飾總て西洋式を用ひた處、令兄石球翁の統支那趣味との對照頗る妙を極めた
- 名利に冷淡 博士は頗る名利に冷淡で彼の諸大家の通弊とも云ふべき只名前を貸して報酬を取るが如き事は斷つてせられなかつた
- 博士の文章 博士の文章は實に絢爛を極めたもので世間には令兄が添削せるにあらずやと疑ふた程だが實際流麗三唱に値ひすべきものが多いといふ事だ
- 博士の奇警 博士は時々辛辣なる警句を吐かれたそうで彼の醫海時報社で募集した賈藥論の審査を托された時多數の原稿を一々精讀して其の末尾に短評を加へられたのが左の如き頗る振つたものであつたそふナ御骨折はさる事ながら牽強の跡歴然たるは遺憾(一)
- 天道未だ地に墜らず(二)
- 議論多岐行文蕪漫(三)
- 精たらざるも公(四)

醉中揮毫の趣あり面白し(五)  
論に歸趣あり文に彩華あり(六)

面白く横筋に筋の立ち居る議論(七)

下手に氣取りて旨趣驢(八)

門前雀籠の餘憤ある如きも熱誠掬すべし(九)

噫離縁狀(十)

以て其の半面を窺ふべしである

\* \* \* \* \*

### 海外雜報

#### ●●●●● ロツキフエラ―氏醫學研究所

氏は獨逸フランクフルドのフロフエツソル、パウ、エールリツヒ氏の研究に依り我醫學界に大なる進歩を興へ今尙は興へつゝある偉大なる効績を感謝し氏の現今従事しつゝある原蟲病の化學的治療法の研究の持續を希望し一萬弗をエールリツヒ氏に贈呈せんことをロツキフエラ醫學研究所部長會に建言せり。

#### ●●●●● 伯林大學創立百年記念會

獨乙伯林大學は本年十月創立百年記念會を催すに就き、東京醫科大學よりは小金井教授、帝國學士院よりは三浦謹教授を參列せしむる由、三浦博士は八月十四日發、小金井博士は七月中旬頃出發、ともに往復日數約五ヶ月の豫定ありき。因に三浦博士は本年九月

西班牙バルマロームに開かるゝ萬國醫術電氣學會議にも參列するといふ。

#### ●●●●● 伊太利大學の工業病臨床講義

學問の本場たる獨逸にさへ未だ施設なきにも不拘伊太利にてはミラン市立病院内の一部に工業病臨床講義を開設し之れがために九十の病床を備へたり此目的は斯くして工業病の原因症狀經過及轉歸を正確に調査し疾病保險上の材料に供せんとするに在りといふ。

#### ●●●●● ナイチンゲル嬢の遠逝

クリミア戰爭以來其名を世界に知られたるフローレンス、ナイチンゲル嬢は七月十四日死去せり嬢は千八百二十年伊太利フローレンスに生れたれば本年は正に九十一歳あり千八百五十四年クリミア戰爭に於ける嬢の博愛的活動は今更ら喋々を要せず而してそがやがて赤十字事業の起原さふりたるも亦云ふまでも無し嬢がクリミア戰爭に於ける三年間の救護事業を了して歸國せんとするや英國人は嬢の凱旋を迎へんが爲め特に一隻の軍艦を用意し倫敦市民は一致して嬢の爲めに一大盛宴を開くべき準備を爲したるに嬢は潜に一佛艦に搭下本國に航し歸國の報他に知らるゝころは早や田舎の自家に物靜かふる生活を営み居たりきこれナイチンゲルのナイチンゲルたる所以あるべし間も無く嬢は英國國民より感謝の爲めに寄贈されたる五百磅(五十萬弗)の贈金を投じて聖トマス及キングコレツヂ病院の看護婦養成の爲めナイチンゲルホームを建設し爲めに盡す處極めて多く其の外軍隊の病院及び衛生問題に意を注ぐこと深く其の一千八百五十八年に出版せる「看護術の心得」の如きは斯界を刺激したる所何許あるかを知らず爾來本國に於ける各戰爭は云ふまでも無し海外各國亦た病院建設等につきて嬢の目を叩くもの夥しく英國皇室は一千九百八年嬢に賜ふに英國國民は最も珍せらるゝ倫敦市民權を興へたる外、オルダー、オスメリツツを下賜せられ全世界に慈悲の女神を以て稱せられたり

# 醫校雜報

## ●學生の氾濫

本年各高等學校第三部即ち醫科(醫科豫備科)及各醫學專門學校への入學出願者は昨年比すれば尙一層増加し居れり即ち本年及昨年の出願者數並に採用數を示せば左の如し。

高等學校名	本年		昨年	
	出願者	許可數	出願者	許可數
第一	六二三	七四	六六六	六六
第二	三一四	四〇	四〇一	四〇
第三	二四三	四〇	三四〇	四二
第四	二六四	四〇	二七九	三九
第五	二五〇	四〇	二九八	四一
第六	三〇四	四〇	三三四	三九
第七	六二〇	四〇	一七四	四〇
第八	三三二	四〇	二八三	四〇
計	二,九五〇	三五四	二,七七五	三四七

即ち出願者に於ては昨年比し百七十五人を増加せるに對し採用數に於ては僅かに七名を増加せしのみあり。次に各醫學專門學校に於ては左の如し。

校名	本年		昨年	
	出願者	許可數	出願者	許可數
千葉醫專	七七一	一〇〇	八〇五	一〇五

仙臺同	七五五	一〇〇	五八一	一一〇
岡山同	七六〇	一〇〇	七三九	一一四
金澤同	七一九	一一〇	五五七	一〇〇
長崎同	六九七	一〇〇	四四二	一〇〇
新潟同	七二八	七〇		
京都同	七四〇	一〇九	七二五	一一五
愛知同	七一一	一五九	七〇九	一四三
計	五,八四四	八四八	四,五五八	七八二

### 附記

慈惠會、熊本の二醫專校、大阪高等醫學學校は未詳に就き省

即ち受験者は昨年比して一、三二六人を増加せるなり、尤も新に新潟醫專校の出來し爲めふれど、それを除きて從來の學校のみによりて比較するも五百九十八名を増加し居れるあり。又採用數にては六十六名を増加し居れども、之も新設の新潟醫專校を勘定外とする時は、増加せざるのみか、却つて四名の減少せるあり。

右の二表を略言すると、高等學校に於ては出願者百七十五人の増加に對して採用數を七名増加し、醫專校は出願者五百九十八名の増加に對し、採用數は却つて減少せるあり。更に出願者數と採用數とを對比せば、高等學校は二千九百五十人の出願者に對して三九四名を採用せるのみふれば、入學許可人員は入學出願人員の二割にも當らぬあり。

而して餘は八割弱即二十五百五十六名の學生は本年も其志望を果さず、高等學校第三部へ入學し得ず、又々一年遊ぶか、或は他に轉ずるかするあり次に醫學專門學校に於ては五千八百八十四名の出願者に對し八百四十八名を收容し得たるのみふれば、これ亦出願者數の二割とば採用されぬあり、而して五千三十六名の落伍者は、之亦他に轉ずるか一年遊ぶか、兎も角も其志望を果し得ざりしなり。毎年の事乍ら、それも多少とも此の落伍者を



減じ得れば心強けれど、却つて益々増加しつゝあるを見ては聊か心細からざるを得ず、教育當事者は正に一考すべき事なり。(醫海時報抄)

● 醫學校 卒業 者 數

(醫師の増減)

昨年度に於ける各醫學校卒業數、及本年に於ける同豫定數は左の如し。

學 校 名	本年卒業豫定數	昨年卒業者數
東京醫科大學	百二十六名	百〇三名
京都同	七十六名	七十八名
福岡同	九十三名	八十名
千葉醫專校	百廿四名	百〇七名
仙臺同	百十五名	八十六名
岡山同	百十三名	九十五名
金澤同	百十七名	百〇三名
長崎同	百〇八名	百二十名
大阪高醫校	九十名	六十三名
京都醫專校	百十名	九十九名
愛知同	七十七名	百廿一名
慈惠同	百廿一名	八十五名
熊本同	九十四名	八十四名
計	千三百六十六十四名	千二百二十名

八名位多きのみあるべし。將來も此數は學校が學生收容數を減少せざる限りは減する事ふかるべし。故に今後は年々學校卒業の醫師のみを千二百餘名宛供給し得る譯あり。來明治四十七年醫術開業試験の廢止せらるゝ迄には、右學校以外に數百の醫師が年々社會に供給せらるゝなり、即ち今年の例に見ても、今日迄の開業試験及第者は既に約貳百人あり、年末迄のを合せば參百四五人あるべく、此數は右卒業者以外に社會に供給せらるゝ醫師數あり、故に本年は學校卒業者も開業試験出身者をも合せば新に社會に出づる醫師は約千五百四五拾名と見て大過なからん、併し開業試験にて醫師を社會に供給するは今後僅かに四年間の事故に且く措て論ぜず、唯だ學校卒業者數にのみより考ふるに、右の千二百餘名を毎年供給し得るのみにて、醫師供給は十分あるか、又た不足か、大に調査するの必要あらんと思はる。昨年の醫師の増減數は會て所記の如く醫籍より抹消されしもの千二十二人新に登録されしもの千四百三十一人にして、此他に醫師さかりしも登録せざるもの二百十一人との事あれば、昨年一年間に醫師の増加せし事は六百二十餘名なるが、之は試験及第を合算せるを以て、開業試験を除き、學校卒業者のみに就ていふ時は、年々醫師の社會に出づる千二百人内外、社會より去るもの假りに昨年の例に見て千八内外とある。本年の如きも前半期に醫籍より抹消されしもの五百四拾人故、一年千八内外の抹消者を見てよし、故に將來開業試験廢止されて學校即ち醫育機關の擴張又は縮小せられざる限り、即ち現在の醫育機關に變更なき限りは、年々醫師の増加し行く事二百人、十年二千人ありと見るを得可し。尙近數年後には、新潟醫專より卒業生を出す可く、東化醫科大學も出来るべく、早稻田大學にも醫科を設置する計畫ありといへば、之等の新學校よりも卒業生を出すに至るが故に十年後には更に右増加率を加へ一年參百乃至四百名の醫師を増加するなるべし、尤も之は机上の計算なるが、大體は此數に大なるくるひを生ぜざるべし。右の如き醫師増加數にて續くときは、十年後には



### ●仙臺醫專校教室改築

仙臺醫專校の基礎學科教室は、新移轉地たる病院隣接地へ改築のこととあつて、愈々明年度より解剖生理の二教室を改築する事とし、其豫算は約八萬圓なるも、明年度は先づ解剖學教室及實習室の改築に着手する筈其豫算は約四萬圓を計上すといふ。斯くて各教室の順次完成せし曉茲に於て東北醫科大學と改稱する筈なりと。

### ●岡山縣立病院改築の議

岡山醫學專門學校附屬縣立病院は、明治廿三年の建築にて既に廿々年を経過し大に腐朽せしに付き、數年來改築の計畫ありしが、尙現在場所の不適當を感じ來り、愈移轉の必要に迫られ、先づ移轉地を選擇したる上、進むで改築に關する案を起すべく内々協定中ありと聞く。

### ●田代氏及森永氏在職祝賀論文集

長崎醫專校長田代正氏及同教授森永氏在職二十五年祝賀の紀念として論文集を刊行し研瑤會雜誌第九十二、三號として出版したるが内容は獨語論文に「産婦分娩及産褥に於ける血壓の測定櫻井三之助、ロノビラス卵の受精に就て」國友鼎「卵巢皮様腫の組織發生の研究」工藤武城「卒業後予の發表したる業績に就て」青木大勇、邦語論文に「尿中蛋白の證明に就きて諸家の方法と自家考案法との比較」森劍川三郎「無垂皮癬に由る造瘻術に就て」青木進「攝護腺液の臨床上診斷に於ける顯微鏡的反應に就て」豊岡文雄「肺結核患者の月經前體溫」田中政彦同九郎其他七篇あり。

### ●新潟醫專校附屬病院費

新潟縣立病院は文部省に献納して既に授受を終りたるが、文部省が受取つて見ると、豈に圓らんや使用に堪へぬ部分あり、故に明年度より四十五年迄に全部改築の計畫を立つるの止むを得ざるに至れり。就ては明年度には約三十名の施療患者を收容するに

足るべき病室二棟を約四萬圓にて新築の方針あるが、明年度は經費の都合上、二萬圓にて一棟を建築する事さふるべしと。

### ●新潟醫學專門學校

新潟醫學專門學校經常費は本豫算に於て六萬餘圓請求せられあり他の取締經費は固より明年度内に於て完備するにあらざれば斯く多額は要せざる筈なれども新潟は他の五醫專に其例無き病院迄文部省の直營あるが爲め病院費三萬餘圓を擧げ居るを以て一般經費は他校より遙かに少額を擧げあるにも拘らず全額は斯く多く居る次第なり愈々豫算通過も確實の見込み付きたれば同校も四月より開設して先づ幹部要員及二三の書記を任命するべしとふるべく先づ第一に任命せらるゝは左の諸氏なるべし

- 内科(校長) 醫學士池原康造
  - 内科 醫學博士澤田敬義
  - 外科 醫學博士富田忠太郎
  - 外科 醫學士藤田敏彦
  - 解剖 醫學士布施現之助
  - 生理 醫學士藤田敏彦
  - 生理 醫學士河村麟也
  - 病理解剖 醫學士田村麟也
  - 産科婦人科 醫學士足立捨次郎
  - 眼科 醫學士菅沼定男
  - 外科皮膚科 醫學士杉村七太郎
- 本年は新潟地方稀れかる天氣續きかりし爲め建築工事も意外に進捗し一時

大工の手を休るさ云ふ位ふりし由あれば九月の授業開始迄には解剖生理病理等の教室は建築十分竣成するに至りたり。

●新潟醫專門學校附屬醫院の開設

同附屬醫院は目下新築工事中なるを以て、舊市立新潟病院を引繼ぎ、之れに多少の改築を加へ、差向き左の職員を以て去る八月一日より開院診療を開始したり、同日午後三時教授以下使丁に至る迄、一同本校の藥學講堂に參集し、先づ池原校長より開設の辭あり、次て富田附屬醫院長より就任の辭並に將來職員の執務上に就きての訓辭あり、之れにて開院の式を終り、同夜職員一同附屬醫院内醫長室に於て、實素ある面識の内宴を催し、種々執務上の打合せをふしたり。

- △内科 池原内科 醫長池原教授、醫員助手中村安藏、須田義彰
- 澤田内科 醫長澤田教授、醫員助手長村義一
- △外科 富田外科 醫長富田教授、醫員助手笹沼豊三郎、浦野多門治
- △耳鼻咽喉科 醫長巽岩教授、醫員助手澤邊正謙
- △眼科 醫長菅沼教授、醫員助手酒井新太郎
- △産婦人科 未定
- △藥局 藥劑部長 岡上敏太郎、調劑手清水克巳、柳下要太
- △事務長 小川爲造、外四名
- △看護婦長 後藤ゆき、外二十一名
- △關係 熊倉猪三郎

●引繼後の新潟病院

舊市立新潟病院が去る一日より新潟醫專門學校附屬醫院と稱し、文部省の所管さふりしと上記記載の如しかくて直に修築の工事に着手せしが、今その重なる點を擧ぐれば、門の左方に車寄を新築し、支關左方へ増築をふして受附及び收入事務室を設け、從來の事務室を應接室に改め、醫長室、醫局、患者控所、藥局は何れも取廣げ從來の宿直室を澤田内科室に改め、小使室を事務宿直室に、看護婦宿直室を醫員宿直室に改め、看護婦宿直室は醫員室の傍に新設し、内部の壁は白壁に塗り替へ、助室に大修繕を加へ、病室其他各室の全部を電燈に改むる等殆んど一變すべく、此工費二千圓以上を要すべしと、又事務員は一名を解雇したる外、當分專門學校職員之を兼務し、藥局は更らに藥劑師二名を増員し、看護婦は三名を増員して二十三名と爲し、尙ほ追々三十名を募集して養成する計畫あり、猶ほ同醫院書記は各府縣の病院及び其他のものを參酌し、醫院規則、看護婦養成規則、外來患者心得及び入院患者心得等を編製し、文部當局者の認可を経たるが、患者は外來入院共にこれを普通及び學用の二種に別ち、普通患者に對しては、略ほ同地醫師會の規定に準據したる診察料、入院料、手術料及び藥價等を徴收することゝなしたり、參考として左にその料金の重なるものを掲ぐ

- △診察料及び其他の料金
- 一、診察券 金五拾錢 有効期間滿參ヶ月
- 一、特別診察券 金貳圓 有効期間は當日壹圓限リトス
- 一、診斷書料 金參拾錢以上
- 但戶籍法第百貳拾五條ニ該當スルモノハ料金ヲ徴收セス
- 一、死體檢按料 金壹圓以上
- 一、體格檢査料 金七拾錢以上
- 一、處方箋料 金貳圓以上
- 一、證明書料 金五拾錢以上

△入院料

- 一、特等 壹日 金參圓
- 一、壹等 壹日 金貳圓
- 一、貳等 壹日 金壹圓五拾錢
- 一、參等 壹日 金八拾五錢

△手術料

- 一、大 金拾圓以上
- 一、中 金五圓以上
- 一、小 金壹圓以上

△藥價及び綱帶交換料

- 一、内用藥(壹種) 壹日分 金拾貳錢
- 一、外用藥 壹回分 金六錢
- 點眼藥 壹劑 金拾貳錢
- 坐藥 壹個 金六錢
- 一、綱帶交換料 金五錢乃至金壹圓

但特に高價の藥品を要するときは相當代金を徴收す

●大阪高等醫學校の事業

大阪高等醫學校病院の新築事業は着々進捗し、本年度を以て完成し、其設備も既に終了する筈であるが、醫學校の方は、昨年度を以て竣功する筈にて、其設備費も約五萬圓を計上せりと云ふ、因に醫學校及病院の職員は、來年度より一般官吏増俸に準じ、夫々増俸するの豫算を計上せり。

●大阪高等醫學校と高等中學

大阪府は近く發表せらるる學制改革に基き、直ちに府立高等中學を設置する計畫ある由にて第一着に第三

部即ち醫科の豫科を設け其卒業者は大阪高等醫學校に收容しそれと共に高等醫學校も漸次改良を加へ大學のそれに相譲らざるものとすべき議ありといふ。

●大阪高等醫學校の留學生

大阪高等醫學校にては、從來毎年二名づゝの海外留學生を派遣し居りしが、明年度には教諭兼藥局長の大槻氏及解剖學教諭大串菊太郎の二氏と決定せり、是にて各科一巡を終へたるものにして、更に次年度よりは、尙繼續留學せしむる筈にて、夫には古參の教諭助教諭の内にて一名、新卒業生の内にて學術俊秀なるもの一名宛を毎年派遣することに決定せり云ふ。

●京都醫專校月謝増徴

京都醫學專門學校は、豫て月謝増徴のこゝを文部省へ申請中の處、本年度の入學生より之を實行することを許可せられたるに就き、本月より實施することとせり、右値上げの結果實習費等合計一ヶ年百圓とふりたる由。

●愛知醫專校の近狀

明四十三年度に於ける同校の發展計劃を聞くに、現在教員數の廿二人に新たに獨逸語事務擔當の外人教師(月手當二百圓)一名實習指導の任に當るべき二名合計三名を増員し、且つ實習並に備品消耗費として二萬七千三百圓の豫算を計上し、又新たに研究料を増設し同校卒業生中尙ほ某科の研究を志望するものを收容して二箇年以内の在學を許すべく、又同校並に過般燒失せる愛知病院の新築は、明年度二十三萬六十餘圓明後四十四年度三十萬圓の經費を以て全く完成せしむる豫定にて、就ては前記各事業の遂行の爲め收入豫算にも大改正を施したるが、其の重なるものは左の如し。

△醫科志願書檢定料

五圓(舊三圓)

△同編入志願者檢定料

七圓 (舊五圓)

△論文檢定料

三十圓

△實習料

十五圓 (年 額)

△醫科授業料

五十圓 (舊卅五圓)

△同卒業授檢料

廿五圓 (十八圓)

△同研究科授業料

百圓 (年 額)

右の内論文檢定料は本年六月以前の卒業者にして校名附醫學士の稱號を得むとする者より徴し實習料は授業料と共に醫科各年生より徴收し、又研究科授業料は前記新設研究科生に課する由。

**●●●●●愛知病院及同醫專校新築**

久しく行膺み居りし同病院及醫專校の新築は過般の縣會にて愈可決せられ、四十三年度に於ては敷地買收費六萬餘圓及工費二十五萬六千六百四十圓を支出し、四十四年度は引續き工費三十萬八千三百二十圓を支出するに決し今秋九月末頃より工事に着手する由。因に愛知縣立岡崎病院も病室を増設するに決し、其經費八千二百五十圓は既に縣會にて可決せらる。

**●●●愛知醫專校の研究科設置**

同校にては、去る四月一日より研究科を附設せられたるが、其の規定は左の如し

第一條 本校卒業者にして其學科を專攻せんとする者の爲に研究科を附設し其修業者を研究生と稱す

第二條 研究科は既修學科の一を選びて專攻せしむるものとす

第三條 研究科の修業年限は二ヶ年以内とす

第四條 研究科に入らんとする者は身元保證人を立て志願學科を記した

る願書に在學證書を添へ願出づべし又退學せんとするときは其理由を記し身元保證人連署の上届出づべし

第五條 研究科の授業料は一ヶ年百圓とし毎半ヶ年の始に於て其半額を前納せしむ但し新に入學する者は入學許可の當月之を納附すべし

第六條 既納の授業料は何等の事故あるも返附せず

第七條 同一學科の志願者多數あるときは時宜により入學を許可せざるこゝあるべし

第八條 研究科修了者には修了證明書を交付す

第九條 本校卒業者に非るも醫師にして研究科に入らんとする者あるときは證議の上許可することあるべし

第十條 研究生は本規定の外別に定むる所の規則を遵守すべし

第十一條 研究生規則又は命令に違背し若くは不都合の行爲ありき認めるときは除名す

**●●●●●熊本醫專校の改築費**

同校は昨年來改築及び新築を企て居たりしが、更に明年度に於て十三萬餘圓の建築補助費を縣費より支出することふれり、右改築に關し文部省へ認可申請中の處此程許可せりと。

**●●●●●熊本醫專校の擴張**

熊本醫專校は、昨年來改築中なるが、既に一部は落成せしも、全部の落成は明年さがる由にて明年四月より耳鼻咽喉科及精神法醫の各科を新設し教諭も既に入選を了へて豫約済まふり、又外科及解剖學等の教諭を近日庸聘の筈にて之れ又それ〴〵入選済みさふりしこ。

**●海軍々醫の募集**

目下海軍衛生部に於て中少軍醫二十五名及び少軍醫候補者五名の募集につき文部省専門學務局にては海軍省人事局の意嚮を尋ねたる上、各醫學專門學校長に對し、醫師の海軍出身は本人にまじりても前途頗る有望なれば、希望者に對しては相當の便宜を與へられたき旨公文を以て通牒を發せりといふ、こゝは強ち希望者の少ふあるべきを慮りてのことにあらずして、由來海軍の當局者は、濫りに勸奨して他動的に多數の應募者を得むことを望まず、成るべく自から志望し來る者の多からむことを欲し居れるも、往々出身後の狀況其他につきて實際を知悉せず、或は亦た誤解し居りて、爲めに人をして出願せしめざるが如きことあるは洵に遺憾ありきと、夙に志望者の便に供する爲め『出身者便覽』ある者を印刷しあり、何人もその交附を受け得べしといへり

●海軍省告示第十五號

海軍中少軍醫二十五名及海軍少軍醫候補生五名採用候條醫師免許證若ハ醫術開業免狀ヲ有シ本年十二月ニ於テ齡滿二十年以上中少軍醫ニ在リテハ三十二年未滿 明治十二年一月ヨリ同十二年十一月マテニ出生 少軍醫候補生ニ在リテハ二十八年未滿 明治十六年一月ヨリ同二十三年十一月マテニ出生ニシテ出身志願ノ者ハ海軍高等武官補充條例並明治四十年七月海軍省令第九號ニ依リ本年十一月十五日マテニ海軍省人事局長ニ出願スヘシ採用身體検査及學術試驗ハ本年十一月廿五日ヨリ左ノ場所ニ於テ開始ス

東京築地

海軍軍醫學校

吳

吳海軍病院

佐世保

佐世保海軍病院

海軍高等武官補充條例並明治四十年七月海軍省令第九號採用規則ヲ要スルモノハ口頭又ハ書面ヲ以テ海軍人事局ニ申出スベシ

(通信)

通信

●在歐金澤醫專校同窓會 (松原教授宛)

日野 鬼佛生

面白や歐洲の野の春景色。風暖に日永くアルペン山に殘んの雪の解け行き。鳥啼人を娛ましめて陽春適に至る四月十日。頃しも西曆一千九百十年金澤同窓會は南獨逸の一角ミュンヘンの都に誕生せり。抑もや此地今を去る事數年前。同じく母校の出身今は獨逸ドクトル飯森益太郎君。同じく橋本藍次郎君笈を負むで醫學の經典を研めしより夙に十全會に其名を知られたり。人口六十三萬獨逸バイエルン領の首都たり。全獨逸を通じて都の大なる点に於て第二に位す。大學の宏大なる点に於て一二を争ふ。對日本人の觀念に就て頗るゲミュートリツロある点に於て第一位を占む。されば我母校を出たる人にして當市を知らざる人は殆どある事なし。遠き昔は知らず近くは越前の川合齋君半歳を産科の泰斗デーデルライン先生に親炙し。松原三郎先生遙に來國より精神病の博士クレペリンを訪ひ。岩田一先生歐洲各地見學の途次耳鼻咽喉科を視察し。下平用彰先生突如北獨逸の一隅より來りて更に六月再來を約して去り、ウルツブルヒより生沼曹六君來る。獨り英雄加藤寬君常に北獨逸に局在してミュンヘンに來らず、其何の故たるを知らざれ共。兎に角ミュンヘン市と十全會とは過去に於て殆ど融離し得べからざる千係無くむばならず、此時此所に於て十全會支部の設立や極めて機宜の適したる者云ふべし。若し十全會員にして渡歐せらるゝの士あらば乞ふ一書を送りて、其旨を告げらるべし。在歐同窓會は出來得る丈の便宜と懇切をつくすべきは勿論なり。歐洲の形勢は刻々變動す。去年の

話は必ずしも今年の者と一致せず。物價の向上は獨り内地のみならず。近年八釜敷き獨逸學位問題も昨今は非の觀無くむげあらず。マツチ一箱五厘のものが今春より一錢五厘に値上せり。ビール酒も五割方。下宿屋の朝飯迄向上せり。稍ともすれば洋行も贅澤な内地、生活に一寸之を掛けた者位に。早呑み込みすると大變な後悔は目前にあり。往路の旅費五百圓。一ヶ月の滞在費用如何に少く見積るも一百五十圓が一文切れても罷りならぬ。優に一百八拾圓の準備は肝要也。旅行をすれば無論一日少く共拾圓は烟の様に消れて行く。先日某先生來遊せられたる際、鬼佛生奇問を發して曰く。先生の如くどう旅行計りては大枚が金を費る事でしょう。先生曰くいやもうあてが違つた〜と。單なる一語極めて痛切。誰でもあてが違ふ、者あり、有態に云へば内地と歐洲とはテンデ話の違ふ、餘りに有りの儘の歐洲の話をすると「彼奴は吹くのだ」と云はれるのが。心からつらいので誰しも心に感ずる三分一もしやべらぬ。之れは遠慮と云ふ者あり。遠慮があるので禮儀が立つ事を心得て居る以上、めつたな事を口外して悪まれるよりまア〜歐洲も日本も長所と短所とは御互に「ありまきサ」位で、お茶を濁すのが至當かと存ずる。去り乍ら漚いた茶を飲ませられて、主人が「お服加減は如何でムります」に應へて、誠に結構今一杯と云ふ時代は昔の事あり。私は澁茶は苦いから厭だ、あらう事から「朝日を一杯」とやるが當世ふりと聞く。お茶を濁して人を誤るより。純粹な生ビールで腹まで染み渡る味が道徳の道に叶ふ者也。此見地より鬼佛生敢て誠を告げんとす、聞く人法螺と笑はば笑へ。見む人偽虚と誇らば誇れ。誠に前には何等の恐るゝ者なし。直往邁進思ひ切つて歐洲昨今の現状を告げ参らば度し。

「洋行するに愛國心が強くある」とは豫て恩師から別に臨むで僕が耳朶に叩した一語であつた。然り、日本臣民にして歐洲の文物を目睹する者が。愛國心を湧起する事は誰しも痛切に感ずる所、愛國心も普通の程度ならで。極論の愛國心也。一寸歐洲の關門を見たか最後。あゝ情ふい!!との感慨と

同時に知覺神經はビリ〜と亢奮して「あゝ日本は情けふい!!」と心から心底から感ぜしむる。學問的の醫學上の話等はさておき、一寸目に映ずる道路でも家屋でも、歐洲と日本と相比較したならば、何とも申様なきは悲傷の有様で。到着した晩に料理店に行く。其宏壯と便利と公德的なる点に於て、日本の夫とは天地霄壤の差を發見する。否深く腦漿に印像する。日本の劇場は全然歐洲の豚小屋よりも劣つて居る。實際に於て豚小屋よりも建築が劣る。飯森先生が何時ぞや「衛生學的に見たる劇場と云ふ演説を金澤にされたが。七千哩を距つて居ても「ハハ」飯森先生感慨の一部を洩らしてゐる」と判然推察が出来た。廣坂通りの赤煉瓦學校も歐洲の小學校よりは數等劣つた建築である意味に於て數十等は劣つて居る。郷里から卒業式の時、父兄を案内する時に。之れが金澤唯一の煉瓦學校と説明するに非らずや。煉瓦學校を繪はがきに撮つて歐洲の小學校の鼻垂らしに見せよう者から。「ヘルドクトル!!」此繪は何ぞ豚を飼つておく小屋か!!誠に挨拶に驚かざるを得ない。日本にては瑞西の國と云へば小さく弱い汚い其國の存在さへ知らずにおるものがある。一等國(但東洋の!!)の人の眼にはシユライツの國などはテンデ映らふい。斯く申す鬼佛生も御多分には洩れなかつた、實際行つて見るに如何だ。シユライツの Bag に建て、ある政廳などの宏壯と來たら日本帝國を鐘太鼓で探しても見附からぬ事は大丈夫だ。九州ほどの小國たるシユライツに堂々たる大學校が六個建てられてある。其大學には外科の大元老コツヘル博士も内科のアイホホルスト博士もストルンベル博士も。親しく教鞭を取つて居る。皮膚病學のヤダソン博士も仲々隅に置けない醫學の大星だ。一等國人の眼中に、シユライツが少く共日本の現状より三百年は長足の進歩をして居る。僕且てこゝ云ふ恥しい事を云つた経験を有つて居る。同じ母校の上海の産て一人の支那留學生が來て面識した。元より僕の眼中には上海と云ふ港は東洋の一大要津だ位は地理學の教科にて覺えて居たが夫でも横濱か神戸か三分の一位の者たら



うと思ふて居たて僕は留學生某君に上海は神戸の半分位あるかと問ふた。某君大に色をふして痢!!一度上海に到れ然らずむば共に談するを好まずと云ふた。何も知らぬ僕も不平であつたか自分が上海へ行つて、其宏大其繁華を親視して大に當年の留學生某君が色をなした事を追憶して滿身冷たを覺へた、神戸と横濱と東京を合併して其粹を集めても上海の夫に及ばぬ事を自覺した、日本には漁事があるかと、電信はあるかとか。無學文盲の毛唐が偶々僕等に尋ねるゝ大に腹が立つが。彼の留學生某君は非常に僕の無智を笑ふた事であらう、世界の一等國になつたは善いが。忘れてあらゆる事は凡ての方面に悉く一等國の仲間入をしたと思ふと飛んだ滑稽だ、ツエペリンの飛行船は、日々多数の乗客を満載して湖上を横断して居る。日本に一つても飛行船がある事か。レントゲン光線も結核菌も殆ど凡ての大發明は歐洲人の手から出て居る、此見地から云ふと日本を一等國とするのは一面國家の爲めに哭すべき事だと思はずには居られない僕も愛國心を湧起して居る連中の一人だ。僕は事の醫學に關して是非を云々する資格を欠いておる。が希望丈は溢るゝ程持つて居る。詳しく云へば歐洲の状況を見て此希望が起つた次第だ。歐洲の醫者は終生迄研究を怠らない。頭が禿げ様が白髪にあらうが。顯榮か位置を得ようが。學問の研究は必ず續ける。醫學得業士が醫學士になつたのは學問の研究とは何等の干係が無い、僕が通つて居る外科の教室に軍醫總監で男爵、齡實に七十歳頭の禿げ方髯の白さは云ふ迄もふい。日本からば小田原邊に見晴しの善い別荘でも構へて。御前々々々通り切る顯榮の人だ。此人が毎朝六時から冬の寒さも夏の暑さも致々として毫も壯者に劣らずプロフェツサーの手術を傍觀して居ら

誠に僕は此禿頭を見る毎に轉た敬虔の念を拂はずには居られぬ。パウア博士も齡已に七十歳チームセン博士の女婿であつて。今尙豐饒として其白髯を振りたてゝの講義振誠に壯觀な者である醫學士にでもあると直に金もうけに掛る程の根性の者は歐洲には殆ど少くない。一寸往診をしても百兩

克取れる歐洲の開業醫は。夫迄にうんざ修業をした者だ、獨逸の醫學士は八疊敷計りの室に閉ぢ籠りて。表の門札には醫學士ふと書く者は一人もふい。書いて見た所で驚く程の者は一人もない。實に質素な風彩をしてヨホ／＼嵐々々としてやつて居る。おかしえの自用車で肩で風を切つてお返りかんか云はせるのとは。大邊違つて居るこゝらを見ても東洋の一等國の呑氣千萬ふ事が首肯せらるゝてあろう。

猶豫は時の大賊だ。猶豫は危嶮ある最後を意味す。猶豫は古の慣例を打破して。少くも歐洲の書生に負けぬ様にならねばならぬ、何時迄も一等國の夢を見て居ると刻々時は過ぎ去つて西洋に敗を取らねばならぬ。猶豫もふく毫も狐疑することなく。奮起して歐洲文物の壘を占領せねばならぬ。以上は僕が在歐洲同窓會に際して片手三鞭酒を擧げて演説をした概要だ。時ならぬ氣焔萬丈に給仕のケルネリンが喧嘩でもするのかとハア／＼した顔で僕の顔を眺めて居る、毛唐ふとに誤解されても構はぬが。僕の熱誠を諸君に於て誤解されたならば僕には此上もふい遺憾だ。僕は極端に云ふたから或は「法螺を吹くのだ」と合点されても善いが。僕が熱誠を以て「法螺でふい」と云ふ事を茲に告白致したい。思ひ切つて有の儘を云ふ。無論憎まれても覺悟の前だ。僕が憎げば叩けなぐれ。叩たいもなぐられてもろんふ事は小さき事だ此火の附いた様歐洲の大事を通告するのは。僕の生命よりも邦家に取つては大事だと觀念する。眠つて居る一等國の民の只一人でもパチリと眼を明いて奮起して呉れたならば僕の此小さき生命は夫にて償ふて餘りありだ。謹而母校の隆盛を祈る。

伯林通信 (四月十日) 在伯林 鬼佛生

名古屋の元老羽仙先生より日野生宛伯林外科學界の通報ありたり諸君連名の芳墨拜見。來る十六日より伊太利巡視の積り故隣路貴地に再び

(通信)

立寄るかも計り難く候、先月二十九日より開會の獨逸外科學會に入會出席致し候處思つたより盛大獨逸は勿論澳國瑞國蘭國日本(小生他三名)の外科専門の大中小家千〇〇六名の盛會に有之コツヘル。チャルニー、キヨニヒ等の大元老も出て演舌もありき、一日小生少しく連參の爲め會場最後の高段に起立し居らざるべからざる事と相成俯して下方を瞰下せるに此大家の頭顱殆ど一醉の中に入り其九分通り顛頂の禿々たる見事さに高い段から下の方見れば赤子やかばちの禿禿、

●其ノ二 (四月十二日附)  
陸軍二等軍醫正岩田一先生英國より伯林に歸りての通信

下平教授歡迎會席上よりの御葉書難有拜見イツモ御盛の様子慶賀く一日違ひにて下平教授と面會の機を失ひたるは誠に遺憾千萬去る三日ロンドンより歸伯山田君(山田弘倫氏)は十五日當地出發の筈小生は當分當地滞在の心組今一度ミュンヘンのビーヤを味ひ度存し居候宿所は又々變し候岡田、松久小山田諸君に宜敷

Invalidenstr. 40III. (Berlin) 終

●河合麿氏通信

(松原教授宛)

拜啓其後小生 Examen 準備の爲寸暇無之思ひ乍ら御無沙汰致候此度夏々メスター終りに全部終了致し更に當地を近々立退き巴里、倫敦等旅行の上再び多分獨乙民賢に Ferienkursus を取り度希望に存居候當ヘルン府大學に於ての Doktor Ex. は前後に小生一人受験程度等様子完く不明隨分友人等には無法の忠告も有之候ひしも折角入學候故辛棒して兎も角 Arbeit に取掛り僥倖にも洋行一部の目的を達し候如御存當時は獨乙は勿論至る所嚴重に相成決して從來の如く短期輕々に受験する譯に不參候小生の Doktor Ex.

に對する準備及 Arbeit 並に Prof. の試験模樣等御報道申候間要点にても雜誌に掲載被下は或は他日此目的にて來歐する同窓諸君の參考も被存左に縷陳可致候

一、先づ必要なのは此迄誰も云ふ如く語學習得である、語學の不充分なる爲非常に體病心とふり自ら先づ悔りて人後に悔るで Institut で Arbeit tan するにも Professor の面前で問答するものも不愉快は勿論の事口頭試験に至りては absolut mangelhaft である生も之に就ては始めは中々苦んだので渡獨以來當地に在る迄約壹ケ年半は壹週六時間乃至四時間の Stunde は不絶取り居つた勿論生等の鈍物には山雀の藝ではふいが暫く休止するも後戻りするの恐があつたからであるが多少是等の傾向は渡歐した人の知る所である、

二、Vorlesungs 當大學の規則には Kandidat は皆一應受檢料の Professor の Vorlesung は取らなければならぬ是が三年四年の間なればよいが生等の如き飛入は一年か一年半にて既に Examen に掛らんとする者は中々の多忙で其間には Arbeit も遣られぬ手も八丁耳も八丁(口は八丁には不行阿々)で人に知れぬ苦がある、夫に始の Semester は講義が中々不明不愉快此上もふい

夫が段々耳が馴るれば大意が領會出來益々愉快に感じて辛棒すれば後に細き点迄判明するやうになり Interesse を増す而已ならず近時歐洲醫學の趨勢を會得するやうの感が來りて友人に迄今日の講義の大意を吹聴するやうになる此時が聽講の値打ある時である加之 Dokt. Exm. を受くる覺悟の人は之により語學の上達するは勿論始終顔を見居る Prof. に對し試問の際に方りて引けを取らぬのと向ふも情に依りて苦める様の事なきは自然の道理である 夫是の關係から生は Anatomie から Physiologie に至るまで聽講して今に於りては決して損ではふいと思ふ、或る意味に獨逸語の演説を聞きに行くと思へば良い、

三、Arbeit。民賢にては Döberlein 氏より東京の辻學士の周旋で Thema

をすく貰はれたが當地 Rolle 先生は急に呉れかかつた之は概して何時でもホイソラと呉れぬが當り前であつた所て語學が未だ不充分なれば小使に用を命ずる事も出来ぬ下宿屋の神さんに茶か菓子を請求するやふぶ譯には中々行かぬ、生は他の教授の許特に婦人科の Müller 先生に始め Thema を頼んだが中々仕事が出来兼ねる(教室の設備上)依て一番便利にて生も亦 Interesse を持つて細菌の Prof. Kolle 氏に願ふ事をして先づ全氏の注意で一 Semester 丈は Kursum を取つて昨年暑中休暇を Arbeit に掛つた(此 Arbeit は Berlin, Mediz. Klinik 雜誌に掲載した不日其 Abdruck が廻送するや苦たら何れ御目懸ます) Institut に在りても中々國に居りて小使を奮勵してやるやふぶ譯には不行、又細き事迄一々 Assistant たるに問ふ譯にも行かぬ自ら種々取調へ苦心せればかゝぬ Prof. は勿論 Assistant から同研究者に對しても感想を悪くせぬやう務めればならず、夫てなむ時々 Prof. から御目玉を蒙り Assistant からは小供扱され、御負けに樂んで居つた試験の成績が陰性に終つたりすると中々燒蕪が起りそうにふる萬一燒を起せば夫れより歸朝するより他はないので只一の藥として歐行といふ奴に苦んで學問をなした来たのだと思へば漸次に何の不愉快でも感ぜずやうになり Arbeit にも益々 Interesse が増し來り Prof. も其勉學を稱讚するやうにふるのである、扱て生の Arbeit は約半年毎日勉強して Prof. の許可を得て先づ一段落をとりは Schreiben に苦心せればかゝる Bibliothek に通じて Literatur を調べ、無き Literatur は書店にて取寄せたり表を作るやら大騒ぎ出來た Beschreibung は日本的獨逸で、獨逸人には見せられぬ之を Priv. Dozent か Assistant に訂正を乞ふので其訂正が又中々急に出來ぬ時々請求して漸く出來上れば之を印刷し始めて Prof. に提出する Prof. も又少訂正して始めて完全の Dissertation となる是れ本年の五月であつた Prof. も

先づ得心すれば之に Gutachten 承認狀を添附す其語に曰く此 Arbeit

は小官の教室にて小官指導の下に昨年八月以來熱心研究したるものにして Thema をして披露するは充分價値ある學術的實檢である云々、之を定まつた小使をして受験資格の十名の Prof. の許へ anrechnen せしむるので夫れが約一ヶ月全 Prof. の承認が終れば口頭試験を受ける資格が出来る乍併當大學では前期 (Anatomie u. Physiologie) 丈は此承認前に試験を受け得る、一寸先きへ戻るが此 Chronicon 前 Kolle 氏が生の Arbeit を前以て öffentlich に豫知せしめる必要を感じて一度當地醫學會(勿論大學の博士をも會員)の席上生を leiten した Assistant 共同て生の Arbeit をこつ Demonstration をやつた之は規則にはかゝが如何なる次第にや、

生此 Arbeit は前記の通り Berlin, Medizinische Klinik に博士の添書で投書した其 Abdruck 二百部を大學に上納の規則、

四、口頭試験、筆答はかく又當地は内外科共臨床にあらず皆 Theoretisch

である、夫故余程長く調べれば試験前に氣が安心せず受験科目は三 Gruppe に分たり第一部解剖、生理學、第二部、醫化學、藥物、病理、法醫學 第三部外科、内科、産科婦人科、第一、二部を終へざれば第三部に掛る能はず又全部一時に受くることも出来るが其例は今迄ある試験は嚴重に取締られ一室に壹部宛の Kandidat を呼入れ Dekan (醫科長)は他の一名の Prof. の立會があり受験 Prof. の不公平かと云ふことは夢にも行はれぬ、縦令は解剖の教授 Straper 氏の如きは下平先生の知人あると生も時々招待を受け誠に懇意あるに不係試験場にては丸て法定の裁判官宜しくであつた、

各 Professoren の試験の間丈け御参考迄報道します生の答は煩雜に流れるため廢します

I Theil (二月末)

Anatomie : Prof. Strasser.

- Frage : Das Verhältniss des Bauchfells mit Leber. 肝臓の腹膜の關係で各靱帶を問ふのである
- „ : Was bedeutet Ligamentum teres ?
- „ : Verlauf des Lig. umbilicalis.  
茲に於て胎兒血管の經過 Alantois 管を説明させる
- „ : Form der Leber; Gefäss der Leber.
- „ : Was ist Pfortader ?
- „ : Wie ist Lebergewebe ?, Verhältniss zwischen der Leberzellen u. Lebergewebe.
- „ : Woran kommen die Leberarterien ?
- „ : Zweige der Art. cöliaca.

Physiologie : Prof. Kronecker.

- Frage : Wie ist Absorptionsstreifen des Oxyhämoglobins ? Zeigen mit Bilder.
- „ : Verhältniss zwischen der Verdünnung und Absorptionsstreifen des Blutes.
- „ : Wie ist die Absorptionsstreifen des Kohlenoxydhämoglobins ?
- „ : Differentialdiagnose zwischen dem Oxyhämoglobin u. Kohlenoxydhämoglobin.
- „ : Farbe des gewöhnlichen Venenblutes u. Kohlenoxydhämoglobinblutes.
- „ : Worin wird die Kohlensäure in Ausatomluft existiert ?
- „ : Was ist die Gewebsatom ?
- „ : Was für Vorgänge nimmt die Gewebsatmung ?

II Theil.

(七月七日 1910)

Medizinische Chemie : Prof. Bürgi.

- Frage : Sagen Sie über Kohlenhydrat !  
Wie ist Mono-sacchalose ?  
„ „ Poly-sacchalose ?  
Formel ?
- „ : Vorgänge der Amylumverdauung ?
- „ : Wirkungsweise des Pankreassaft auf der Amylum.
- „ : Wenn man Pankreas herausnimmt, so kommt welche Störung in der Körper vor ?

Pharmakologie : Prof. Bürgi.

- Frage : Wie viel Arten sind die Spezificum von Arznei ?
- „ : Wirkung des Chinins auf Temperaturregulierung ?
- „ : Theorie der hohen Temperatur
- „ : Unterschied der Wirkungsweise zwischen Chinin und andere Antifebrica.
- „ : Salicylsäure; Chemische Formel ?
- „ : Einige organische Arsenpräparate.
- „ : Nachtheilige Wirkungen des Atoxyl ?

Pathologie : Prof. Langhans.

- Frage : Sagen Sie über Amyloiddegeneration !  
Ursache ? Was für eine Organen ?
- „ : Zuerst sagen Bau der Milz.
- „ : Form der Veränderung der Follikeln und Trabekeln.

- “ : Chemische Konstitution der Amyloiddegenera-  
tion ; Befund der Amyloidniz mit  
Mikroskop.
- Gerichtliche Medizin : Prof. Howald.
- Frage : Sagen Sie über die Kaliber des japanischen  
Geschosses und dessen ersten Geschwin-  
digkeit !
- “ : Befund des Einschlusses und Ausschlusses in  
Nabe- und Fernschüsse.
- “ : Verschiedene Fälle in Weichteile und Knochen  
bei Nabe- und Fernschüsse  
Ueber hydrodynamische Wirkung ?
- III Theil  
(七月十六日)
- Chirurgie : Prof. Kocher. (外科學者を以て世に知られる人)
- Frage : Ansbruchprozess der Knochen- und Gelenk-  
tuberkulose.
- “ : Pathogenese u. pathologisch-anatomische  
Aenderung der Gelenktuberkulose
- “ : Beliebte Gelenke im Körper ?
- “ : Klinische Befunde bei Coxitis tuberculosa.
- “ : Erklärung der bestimmten Stellung der Extre-  
mitäten in früheren u. späteren Stadium.
- Geburtshülfe : Prof. Kehler.
- Frage : Blutung in der Schwangerschaft ?
- “ : Was für eine Blutung ist die Placenta prævia ?
- “ : Wodurch kommt die Blutung bei Pl. præv.
- “ : Behandlung d. Pl. præv., wenn das Kind  
I Schädellage u. Osium externum 2

- Finger durchgängig ist.
  - “ : Wirkung der Gasetampnade ?
  - “ : Manipulation der kombinierte Wendung bei  
Pl. pr., wenn d. Kind I Lage steht.
  - “ : Sonstige Ursache ?
  - Ophthalmologie : Prof. Siegrist.
  - Frage : Pathogenese des Glaukoms.
  - “ : Arten des Glaukoms.
  - “ : Klinische Befunde verschiedener Glaucomen.
  - “ : Unterschied zwischen Gl. inflammatorium  
und Gl. simplex.
  - “ : Behandlung.
  - Innere Medizin : Prof. Sahli. (診断學を著し世に知られる人)
  - Frage : Sagen Sie die Definition der Aorteninsuffizienz !
  - “ : Mechanische Vorgänge bei derselben.
  - “ : Was für Gesetze sind in systemischen und  
diastorischen Hypertrophie ?
  - “ : Eigenähnliche klinihe Befunde bei dieser  
Affektion.
  - “ : Geben Sie Aufschlüsse über die verstärkere  
Geräuschgegend, vorbereitete Spitzenstoss,  
Plus celer und Kapillärenpulsation !
- 此の如く問題に對する解答を各々之の既述を以て  
Prof. の 筆に譲るべきを以て十六日午後四時より五時  
十五分まで一室のみの 井田博士に對して行はるる  
人の此の如く解答を各々之の 井田博士 Dekan の 氏  
に交附する事と爲すべし

(通信)

●獨乙大學の醫學專門學校排斥

在獨逸 慷慨 生

十全會各位益々御健勝大賀此事に御座候別に獨逸の昨今變つた事も無之只獨逸學位試験に關し内地の大學を卒業せざれば受験を許可せられず是非共獨逸ドクトルの學位を得むと欲せば五ヶ年の在學を要する事に改められ多數の在留者は非常なる打撃を受けたる次第に有之候學位を得る否否とは別問題として從來迄專門學校の卒業者は之れを受くるの權利を茲に放棄せざるべからざるは別問題として只遺憾千萬ふるは專門學校卒業者の如きは獨逸ふる最高の學府に於て全然其醫學を修めたる事業を毫も認めず大學校卒業者は全然獨逸大學と同等の待遇を受くるに反し專門學校出身者は解剖の解の字も知らず病理の病の字も解せざる者と認められ中學校を卒業して醫學校に願書を差し出したる當時の如く醫學に關しては何等の智識も經驗もなき者同一視さるゝ事に有之候更に言ひ換へれば專門學校の如きは毫も醫學を修得するに足らず何等の醫學的智識を養成し得ざる者と認められたるふり噫大學校ふる哉大學校なる哉萬事大學校に非らずんむば何事も成し得ず大學校に非らずでば出世も出來れば學問も出來ず數百の在校健兒諸君!!! 諸君が若し學界の頂に達せむと欲せば直に大學校に赴くべし赴かざるべからず段鑑違からず斯く申す小生の如き今更ふが根底より醫學を破壊せられたる醫學專門學校に笈を帯びたるを悔む者ふり一度地を獨逸に投じて今數百の在留者が受けつゝある苦惱と煩悶とに遭遇せば益々何人たりと雖も此觀を等ふせざる者あらんや諸君小生の如き母校を愛するの私情に於ては決して他人に譲る者にあらず然し此者流の口より此不詳の言をふすに至りし者克くくゝの事があればこそふり知らず誰が起ちて之れを天下に呼號し此破壊せられたる一大恨事を救済する者ふ蓋し考ふれば考ふる程一大問題なり大學校は完全に醫學を修め得る學校專門學校は毫も醫學を修め

得ざる學校若しくは修むるに足らざる學校と判然區別せらるゝに至りては如何なる温厚の入たりと雖も之れを黙過し得べき乎吾校三十年の歴史を有し先輩の血を以て校門を建てたる名跡にあらずや吾校を辞したる幾數千の先輩の血の熱する事は敢て昔に異ふるべからず即ち謹むて教を待ち大に決する處あらむとす

● ミュンヘンより

日野 鬼佛生

春風煉瓦の窓に吹き初めて長々の冬窺から浮れ出た四月の二日ヒラ／＼と舞ひ込む繪はがき一枚伯林よりと表の上書裏を見るとふつかしや恩師下平用彩先生筆の運きへ生々とした走り書き「明日急に御地へ立寄る時間は重れてと記してあるさあ大變待ちに待つた先生一月來られる筈のが二月にあり三月に過ぎて四月の初め思ひ掛けまい伯林からの飛報!! 折柄來訪の松久祐馬君と歓迎の事など相談して居るさ又一枚の繪葉書が舞ひ込むだ今度はシュワイツの畏兄川合鷺君から例の通り俳句が三つ其下へ下平先生が行かれる筈だうれしう!! 兎も角今夜は遅いから宿取取つて居いて明日同窓の田上清貞君や小山田基君や其他の知人へも通知して恩師を迎へようさ定まつた、寢た夜が明けた明けても知つて居る程の朝起きでふい貴君珈琲が冷めますと宿の女が二度計り催促した何に今日は神武天皇祭だ日本では大祭日だ夫に恩師が来る今に電報でも來たら馬車を準備して停車場へ行くのだと考へて居る折しもチチンと呼鈴が鳴つた、主婦が寢室へ駆けて来て「チツテヤヘル」が來られましたと名刺を差出した、一目見るなり寢室から轉り起きて物を云はずに顔を洗ふ大狼狽で洋服を着る、之れはと驚いた主婦が後に居る「何と返事しますか」と云つた無論の事だこちらへ!! 何故早く睡さかいのだ」と叱つた。髪を分けて居たら入口の戸をコッ／＼「ヘライン」!! 名刺の主は恩師であつた。天涯の異郷に恩師に遇

ふた嬉しさやら昨夜來松久君と歡迎の事共を協議しておいた予が此の俄の珍客に數分時間は無我であつた、何故時間を知らせて下さらぬか恨みました。先生の都合を聞けば無理も無い午前七時にミュンヘンに着て同じく十一時發で壞國のインスブルグに至り明日はシュライツに入りてポーデン湖を横ぎらうとの計讀であつた數時間の滞在「うんか情けな事を云ふて下さるとは」第二の恨であつた「腕力に訴へても今日は歸しませぬ」とやると「今もう瀛軍の切符を買つて來た」にはガツカリした宛に角「馬車の素通りで六月には必ず再來するから」幾度も恩師は云はれた。先生の門生が四人迄居るミュンヘンに僅か數時間の滞在伯林には一週間の長滞在は不公平でぞ怒するを「伯林は外科學會だ」と云はれて又々敗北した表には馬車が待つて居る、チリンデルを被つた香氣想ふ馭者が欠伸をして居る、一刻千金の時だから先生と予は馬車に飛び乗つた「何處へ参りましょう」「先生が電報の用事があるから「停車場へ」と云ふ馭者先生「ヤナル」と答へて馬を飛ばした何ふしたら先生が攻めて今日一日滞在せらるゝか考へて茲に一場の名案が浮んだ「先生一寸先刻の切符を拜見」とやると「何にするのだ」と見せられた手に取つて見るを「通用期限が四日間」「占めたつ」瀛軍の切符は四日間!!」通用の出来るを循に今日一日改めて「もの事」と引き止めた先生も困られたが終に一日を延期する事として、停車場の用を了りて電車に飛び乗つて宿迄志した、何時も乗て居る電車の番號を間違へて飛んだ方角違ひに行つて車掌に笑はれた折柄知巳の陸軍三等軍醫正岡田豐吉君の宅の前に出て先生の來遊を告げた小山田松久岡田諸君と先生の宿に集りて不取敢名産の、ミュンヘンビールを傾けた、成る程此奴は美味い」と先生が賞められた田上君は三里ばかりある遠方で如何しても通知する暇が無い松久君が電報を打たうと云つて町の局迄行つて今日は日曜で休みだぞと云つて歸つて來たのも乙であつた晝食をやらうとあつてヘルツォークハンリッヒと云ふホテルに陣取つた、ビールに鯉の糞付、サザ

のスープに鶏肉後は例の菓子と菓物だ先生の來民を紀念としてはがきを出そうと云ふ事にあつた先生全夫人を筆頭に十全會御中飯森益太郎君伯林の熊谷幸之輔君若田一君山田弘倫君老川茂信君夫から外科の一部山崎幹先生川合藤吾等へ皆夫々の感慨を書いた、仲に振つて居るのは松久君が御自分の鬚が何時経つても發育をしないので盛に鬼佛生の鬚は顯微鏡的だと思口を云ふて居る鬚の事を云や饑だつて御仲間だ先生がツルリと鬚を撫られたハハハ、と笑ふた小山田君の御多聞に洩れぬ此處へ田上君が來りや純粹の無續會が出来るぞと冗談を云つて居たホテルを出てニムペンブルグの離宮を見たとある共同椅子に腰を下して休むだ談は滔々として奇矯があれば地にも出る、日米の關係日露の關係と云ふ續か世界の外交談が初まる、獨逸の様にも出る、云ふ問題が出た、恐くはふるまいと決つた、女は帽子を被り靴を穿かれば駄目だと先生が主張せらる縣會議員以上の人は是非共歐洲を一度見にやらぬ事にすると日本も進歩すると鬼佛生が云ふと滿場意義かして通過時ならぬ共同椅子の在外帝國議會も二十分に於て閉會に移りて次は民賢第一等のビールホールフビーヤフロイと云ふに這入つた、表には十數臺の自動車や馬車が並むて空は數千人を容るゝに足るの大廣間無數の電燈目を操する計りた數名の黄色のヤバーナか來たので獨逸人が注視する、就中隣の頗る美麗な女が切りに顔を眺めて居る微笑もする眼の動き鹽醜が異ふアナタ日本人ですれ、これから一所に町を散歩しようかかか、と云ふ歐洲の女は先刻御承知の通り頗る可動的だ眼は口程に物を云ひ先刻から變ふ眼付で一行を見て居る監人しやあるまい何だらうの疑問を解すべく餘りに六ヶ敷あつた飽迄ビールを傾けて町へ出たカイザーホールに夕食をやつてトレフェラーの芝居を見歸途ステーカーと云ふ珈琲店に珈琲を飲む夜も遅く二時を過ぎた二時!!驚いて歸路に就いて明日を約して歸つた朝寢坊の僕も今日は先生を送るべく停車場に行つた待合室に陣取りて暫の御別れの杯を擧げたアラットホームに恩師の影の見へず

(通信)

る迄帽子を振つた門生一同昨日來の愉快は近來かかつたに樂しく打ち與して越えて翌日先生からの繪はがきが着いた、

Danke tausendmal für Ihre Freundlichkeit.

In den ich Ihnen nach recht gute Beserung

Wünsche begrißte ich Sie bis auf wiedersehen.

Ihre Dr. Simodaira.

### ● 小山田基氏通信

恩師下平教授の送迎は吾等に痛快なる清涼劑に御座候此の事は手の八町ある吾が日野兄に譲り新參ふる小生は春めき渡る彌生の民賢バイエルンの名物ある大學の昨今故國は「ドクトル」事件の火の手の眞最中此處よきコントラストある本家本元より一筆啓上と駄しやれするも或は高覽の榮を得るの様もかなと抑々の譯合に及び申候

かく申す小生は過去三年上海にありて糊口を養ひ其の亦過去は京は加茂川のはこり山澄み水清き産婦科にありしもの三年は石の上さば古人の言に候も疊に坐りたまきに、昨夏久々にて蓮の御江戸に歸り永く遠かりし故國の學窓文明さかの模様もど見てまた、凡ての凡ての機關到底大清の其にも及びぬ事を知り申候暫し靜養して諸般の準備もどか、十月二日東都を辭して再び京阪九州を経て上海に航し南鐵の西京丸にて新開の花ふる大連日露の故戰場ふる旅順に上海よりの好旅友ウサノソウテンニヤイン氏と二百三高地を吊ひ南山果ては奉天ふとも過ぎ南の厚遇列車の壯麗吾が思出の一に御座候ハルピンにてかれて出會ふべく約束せし小生等の元の師殊に小生と關係深き岩田學士と會して更に温情をかへつゝ乗る事十數日伯林に着せしは去年の十月然も末の日にて候彼地にては音に名たるアンム

五〇

伯林の名所を見物する事十日ばかりハルピンに吾が同窓の加藤君を訪ふべく思ひしも入學の機ひの遅るゝを恐れて直に當市に來り不圖も茲に亦吾が日野兄と奇しき再會を喜び殘る事なく配慮せられて殊に居心地定まりしは十一月八日に御座候關守ふき月日目が吾を茲に居て事早や五ヶ月余其間多少の變換はあれ要するに些の進歩を見ざる次第上海にて綴へし吾、獨乙は愚か倫敦巴里を過ぎる共何の事やあると人に言はれて吾も亦心ひそかに期せしが豈圖らんや弟知らずや流石は獨乙に候暫くは西も東も吾日野其人の尻尾に付纏ふ有様殊に大學の宣誓式を受けし所謂「ケーニグリヒ、ルドウフクに、マキンシリアンウニウエルザテート」の大講堂に入りて黄色顔のヤパーナが多く毛唐と共に總長が學生の權利や入學後の心添へお聞かされし時は俄に伸びと心地したのは獨り吾のみならず凡ての人の腦裏に通ずる一事からんぞ存候當醫科大學は伯林と並稱せらるゝ大仕掛ベテンコフヘルヤチームゼンの築きし本場吾が學はんとする科には西の大關デーデルライ教授あり其講堂の整頓其フアルの豊富なる豈露かざるを得んやに候豈吾れ獨りのみならず開業せし諸君には先刻御承知の中々成書を繕くおりの少きもの亦未だ來らざるの日ひそかに思ひしに試験何程の事やあらん留學生多くは或は靈の浮橋に漂ふにはあらざるかふと思ひしはそも、大の過り思へば吾が身ながら淺果敢の事ふりしよ、母校にありて多年陸ひし師の共に情を受けつゝするさへ尙難きものを況しては至難の犬の言葉に等しき國語もて其れテーマよ其れ論文よ其れ試験よとは中々間屋も卸さぬ筈に候日を過ぎて慣るゝにつけ如何に受験者の苦心慘憺たるやば誠其名に背かざる試験の方法に候されと此受験ふる一事は生等に非常なる刺撃を與へ申候少くも此地に幾千巨萬の財を抛り遙に笈を万里の外に負ふ者必ず大に小に心ひそかに期する者ふくんばあらざるべし伯林にあるの日は多くは毎日俱樂部などに打ち集ひ玉突圍碁將菜など其々の娛樂を見れば伯林の人の境



遇の變りしを到着早々小生には寸毫も思ひ當らざりしかり噓唯さへ至難の此解決搗て加へて當地は抑「ドクトル」事件日本人排斥の本元火の手の親玉風上たるは何人も知る所其所を撰ひし小生先輩諸氏の玉の汗を流しての勉學を見るにつけ略ぼ其程も察せられ候敬愛ある會員諸君、諸君の中に已に月桂冠を擔ひ疾く故山の成功に圓カキ夢をむすふの士もあるべく又之れより來りて學はんとする者もあるべし「ドクトル」ある稱、此學位之れ唯一の我等が獲物と思ひ給は、夫誤れり唯心あるもの此榮譽を得ば一つは其實に影を添へ一つは元より將來の研究に最大の方便を興ふるの門戸あるを思へ人生誰か甘味座して其成功を願はざる者やあるされど敢て自ら進みて水火を辞せざるもの言を俟たずして其來るべき運命により幸多かれと祈るにょりより豊けき紙を長へに傳への意あるに由るかり我等校門を辞するの日師の君よりおくられし言の葉に報ひんさせばかり然るに今や故國の多くの學友の望み深かりし此事件より遂に五年の歲月を過さしれば其榮に浴し得ざるに至るさかや未來の抱負盛なるの士霸氣燃ゆるの士幸に此唯一の前途の連鎖を永久に埋らざる様奮勵一番せすして可からんやに候此危機一髮空前の燈にひとしき我學窓にあるの士はもとより大なる自信と勇争を持つるは論を俟たざるも思へ人生は境遇の刺戟に甚だ鋭敏なるを、山川萬野或は慈母と未來の成功を約して未だ錦衣歸るに至らずして長き眠に就かれしなうらむ人もあらん或は妻子にあかぬ袂を分ちて學ぶの士も多かるべき旅衣順境にありてさへ尙忘れかたき故山の望ましてや眼前曉曉たる山嶽盤に火焔をふき滄海は怒濤を弄て幾多の舟子を併呑せんとす天涯の孤兒等の胸中には必ずや幾多の錯雜せし感慨も交々至る間學海に棹しも又難い哉

されど幾多の犠牲を拂ひつゝ天より期せし這般の消息に躊躇するの徒もあるべきも之れより來らんとする兄等の中にはひそかに其成功を聞かんとするあるべしかふしや吾人は此消息を未だ詳にするを得ず要は唯一に其抱負と勇氣によるばかりあるべく候

(通信)

春眠曉をおほへさるてふ此四期の佳節も夜半夢圓かからざる輩も此地に多しとかや之れ云ふべからざる刺戟と過度の勉強による事ある明なる事實に候

近時獨乙の政策は彌々増々試験を難くして同胞吾人を苦しむるに傾きつゝあるは争ふべからざるの恨事に候若し夫れ試験の細目及び其學科目に至りては諸君の既に承知せられ給ふ所あるべく今此處に贅せざるべし唯未だ經驗少ふき小生が思半ばに過ぐるの一事を過て諸君の反省をうかがせば足れり近き將來に於て來るべき二代の前諸君が學に業に尤し厭はせ給ふの機あるべく候幸に自重邦國の爲めに御盡力あらん事を希ひ遙に幾年の久しき無音を謝し長しに諸君の祝福を祈る

一九一〇年陽春四月五日

在獨乙 小山田 基

Dr. Motoi Oyama,

bei Fern Shigalmeier,

Meisterstr. 5 III,

Mitthehen

十全會會員各位

●生沼曹六氏通信

(八月二十一日ライプチ)  
ツヒ發松原教授宛

よせ書端書難有奉存候小生不相變頑健御放慮下され度候九月下旬には維納の開催の萬國生理學會に臨み都合によりては南下して以太利を見物致度存居候十月には多分月沈原に轉學可致候免鳥々として過ぎ學業素志の半に不及思はず巻を覆ふて長息する日も不勤候

●獨逸留學諸氏の寄書

(松原教授宛)

本日田上將軍號令の下に在獨金澤同窓會を開き千言萬語母校の懷舊談に樂

(通信)

しき春の夜を明し申し三鞭酒を擧ぐ(日野信次)。未だ不幸にして警咳に接するの機を得ざるも高名はかれてより御幕ひ申せしもの今夜同僚四人相會し遙に先生の御健康を祝す(小山田基)。本日を下し醫學深淵の地に於て十全會支部を設け同窓會を開きぬ君からの祝電が来るだろうと盛にビールを飲み待つ待て居るのだ(中略)田中、深見二君に此うまいビールを呑ませたいな、よろしく(田上生)。「ビール」は民賢なりと田上日野見は云はずもが最先の小山田君まで盛に釀飲さるゝには一寸驚いた小生は未だ拜眉を得ざる同窓の一人に御座候遙に御健康を祈る(松下祐馬)。シュワイツ下平先生、川合齋君伯林の岩田先生へも今度の發會式を電報したる在獨金澤醫學專門學校同窓會の *Gelehrter* 何れ詳細は田上將軍から御報知を給ふ事にする若し同窓生にして來獨せらるゝ方あらば早飛脚にて田上君迄届け出づる義務ある者とす金澤の母校萬歳十全會萬々歳(鬼佛生)。東京の朝日新聞を讀んで嬉れし事がある東京で有名な、ミュンヘンビールを呑む事が出来るこ子は金澤でも其のビールを呑める様にふるを望むアームマイ、(田上生)。何だか君の御客がふへた様で今から病室の明間を心配して置いてくれ給へ僕の腹も近頃大變ふくれたよビールを爲めに、命が延びるよ大へんウマイ。

●同獨逸留學四氏の寄せ書

(十全會宛)

獨逸の大學生等は非常に呑氣なものである社會へ泳ぎ出してからは大ひに勉む在學の予等同胞諸君は極めて呑氣に先生方の驚く程に愉快に／＼のび／＼と男らしく遊び玉へ決して勉強ぶどおし玉ふふ、卒業後はウーントヤるのさ(田上生)。幾百の燈火の下燦爛たる幾多の紅點如何に吾人の眼を驚かしめしよこれが夜の獨逸の「レストラン……」(松久生)。時鳥春の朝に音つれり、と申様な同窓會を發會して皆様の爲に通信する事かと話しました

益々祈御隆盛(小山田基)。謹而母校の萬歳を祝す本日茲に在歐金澤醫學專門學校同窓會支部を設く(日野信次)。

●在獨下平教授歡迎會通信

(十全會雜誌部長松原教授宛)

三年有半の留學期空しく過ぎてこゝに歸朝の途に上るに際し昨日はウヰーの花を賞し(？)今はミュンヘンの月をふがめ今夕亦斗らず同校諸君の厚誼による愉快ある宴會に列するを得歡極まりなく候ミュンヘンチルビールの巨杯を擧げ遙に十全會のマス／＼隆昌ならむ事を祈り申候(下平用彰)。明治四十三年八月十九日下平用彰先生獨逸國ミュンヘンに來遊せられ歡迎會を開き席上十全會の隆盛を祝し申し候(日野信次)。(長崎縣壹岐國人醫士肥衛)山形市三日町開業醫青山金吾。(廣島縣賀茂郡内崎岡田豊吉)。(大阪高等商業學校加藤定一)。(諏訪堂一)。(深瀬周吉)、先生の御目出度き歸朝につき有志相計り歡迎と同時に送別會を催しつゝ、Hotel *Wagaa* 快談湧くが如し(田上清貞)。異郷の地に同胞相會し先生の爲めに祝益を擧ぐ生等の喜びに堪へざる所に候(松久祐馬)。下平先生を歡迎し十全會の昌盛を祝す(佐々木惟朝)。在民(小山田基)。(大坂高等醫學學校和田豊種)。(臺灣總督府醫學校堀部亮)記者曰く本通信は下平教授今や幾多の造詣と業績を擔ふて歸朝せらるゝに際し歐洲醫學の大勢を總括すべく獨逸の學府に屢々歴訪せられしを機とし在民賢の我醫學留學生諸君一堂に會して先生を歡迎し大に日本民族を發輝し遙に諸氏の寄せ書きを本會誌編輯部長宛に送られたるものにして茲に謹て其厚意を謝し下平教授が御健康に一日も早く一大業績を遂げて斯界の門鍵を握り目出度歸朝されむ事を祈る。

●淺利義次氏通信 (田中一次郎氏宛五月一日)

復啓今回御叮嚀なる御芳翰頂戴難有存候學兄倍々御勸精校院の爲め御盡力  
恭賀之至に存候小生よりは意外の御無沙汰何卒御海容被下度候今般田演君  
當内科へ御勤務被遊候就ては何より好都合殊に同君着實にて相俱に研究可  
致候間御安神被下度候御存知の通り小生は卒業爾來當内科へ奉職既に五年  
に相成今尙不甲斐ふき有様赤面の至に存候院内同窓生は各科を通じて六名  
あり他校に比し最多數且品性學力共に劣るなく仰々勢力有之候今後必要の  
場合には直に御依頼申上度存居候間ドシ／＼御紹介御盡力下され度願上置  
候尙市内に於ては堂々と門戸を張れるものもあり又雜誌にて御存知の如く  
七日會を開設し毎月七日同窓生一堂に會し斯學の爲め相互胸襟を開き僅に  
番茶にて愉快に一夜を更し居候兎に角大阪岡山の範圍内に屬する當市内に  
於て金澤出身者の活動は漸く嫩葉の發芽する如き有様にて實に有望の至り  
に存候尙當市は人口殆ど四十万人目下大藥港建築申て茲に十年後には東洋  
第一の開港地さふるからん御閑暇の節は一度御來遊被遊ては如何に候や御  
案内申上べく候右御禮旁御挨拶迄申上候

●井村勇作氏通信

(松原教授宛)

拜啓金澤地方の天候如何に御座候哉當地方の天候至つて不順に候市中の浸  
水は未だ復舊致さず候由に御座候電車は殆ど水見舞の客に滿され居り候既  
足袋に竹のステッキと云ふ裝束の客電車申にて巾利かし居り候今度の洪水  
は當地方にては八十年目との事にて候幸乎不幸乎小生の居る所は常に平安

(通信)

に候去る十五日より病院内に宿泊仕り居り候未だ院内の事情に通じ申さず  
候本院に比して分院(大久保腦病院は山田病院の分院にて精神病のみを收  
容するもの 記者附)は立派に候分院は一昨年とさ新築したるとの由人家  
を稍離れて小丘の上に建てられ居り甚だ閑靜に候醫員參名藥劑師參名事務  
員參名看護人七名看護婦十三名門番一名小使二名にて當院は構成され居り  
候入院患者目下二十九名に候院内には發電裝置(蒸氣にて)有之候稍完全に  
候院内の掃除其他の規律は金澤病院の及ばざる處に候院長は藏書家に候爲  
讀書に便利に候……………今日迄の所にては小生に取りては満足し得べき病  
院に候……………外來患者は僅少に候に付勉強は充分に有之候

●井村氏通信

(福田美明氏宛)

本月下旬御料新築病舎御移轉の由芽出度候近日東都の一部の人達は例の千  
里眼婦人千鶴子を圍繞して夢中に相成り居り候或學者は彼のケレナソート  
發見者 Kalchenbach 氏の Or 説を盾に積極的説明を致し居り候小生も趣  
味を以て注意致し居り候何れ靈的相通信も可能かと夢想致し候其節は今日  
の電信郵便は勿論無線電信も無用に候從て通信料用紙代も要せず甚だ經濟  
的にて小生の如き貧書生には此上もふき福音に候一日も早く其期の來らん  
事を希望致し候、後略。

東京大久保腦病院(院長醫學博士山田鉄藏氏)ニテ

井村勇作



# 校内雜報

## ●新入學生入學式宣誓及式

九月十二日午前七時半より本校齊々堂に於て本年度新入學生百〇四名に對し入學式宣誓式を舉行さる。定刻新入學生入場續いて本校教授職員入場す校長は新入學生一同に對し一場の訓示を本校生徒心得五ヶ條を期讀せられ後本校教授を紹介さる。阿部生徒監の訓話山崎十全會理事の十全會の組織規約概要の報告あり次きて新入學生一同は生徒心得五ヶ條の下に各自違背せざる事を自書誓約せり。

## ●新入學生諸氏歡迎の辭

本會は茲に謹て新に會員とふり給ひし新入學生諸君の爲めに歡迎の辭を呈するの光榮を喜ぶ。諸氏は中學の課程を終へ其が位置に満足するふく進んで高等の學府に入り大に爲すあらむと給ふ其志は既に是男子の華にして亦國民の華ふりさす。況んや身を醫學に任せ他日良醫とふり人の身命を左右する諸士に於ておや其任亦大ふりと云べし。願はくは諸氏一意専心已が望みに向つて勉勵し來るべき外界の誘惑に陥る事なく奮勵努力目出度四ヶ年乃至三ヶ年の課程を卒ひ給はむ事を、男子志を立つ須らく曉れて後止むの覺悟ふかるべからざるふり一言以て歡迎の辭さす。

## ●新入學生

新入學生本年の入學志望者醫學科七百餘名藥學科六十餘名あり其中選抜試験によつて入學せられたる諸兄左の如し吾人は切に諸兄の健康と成効とを祈りて止まず

### 醫學科第一學年

柴田 一男	沼田 肇三	青山 繁織	田他家男
前澤 昌之助	三桶 米造	芳野 貞俊	田村 愷七
播 正雄	下間 伸一	日比 忠男	高橋 隆三
石出 壽夫	深澤 忠義	毛利 清藏	林 敬雄
堀 義治	山口 芳朗	山口 甫	林 謹一
有居 義敷	木村 豐三郎	宮地 通夫	三浦 信明
寛 正通	小越 哲三郎	高森 友正	鈴木 正十郎
岡部 博	氷室 豐文	田中 周次	池田 直吉
松本 桃道	山口 嵩	坂口 療一	清水 尙
清水 亮	山下 賢吉	海沼 治亮	志村 達雄
關 茂樹	川口 賢太郎	松本 易二	示澤 喜久男
中島 理吉	佐々木 金雄	大木 孝允	乙部 元治
涌井 正雄	中田 義介	大木 素夫	上池 林彌
松田 菊雄	西岡 禎次	金子 貞吉	太田 喜作
栗山 光太郎	豊岡 會喜藏	原田 定次	瀬戸 清次
石田 宏	佐々木 文三	德 茂隆	太田 和夫
若山 東陽	佐々木 善三郎	高倉 外次郎	淺井 機夫
榎田 乙松	堀 乙次郎	田原 善成	石川 清
嶋田 喜一	松田 茂	中西 興三郎	牧 駿
前川 孝之	北 高樹	崎山 敏雄	野村 義章
稻村 大助	佐伯 尙平	長廻 善吉	渡邊 政始郎
田尻 秀雄	北村 誠吾	増山 美登	鷹取 常保

久保木壽朗造 佐伯 義久 棚橋 精 齋藤 爲吉  
 山中進一郎 柏田 茂 黒田 末次 久野 貞  
 藤戸 謙治 池浦 波 草川 正也 堀 順郎  
 本多 尙 八嶋 脩 川久保俊一 竹重 信次

藥學科第一學年  
 神田 興敬 小出 茂雄 武内 増藏 高橋 秀三  
 宮崎 博 石野 金朔 堀 球造 田中宗太郎  
 内藤得之助 越知麟太郎 長尾 秀治 野間 肇  
 吉野祐三郎 和田源五郎 田中 禮一 小林辰之助  
 塚田 彌三 榎本 虎雄 禪澤 博 村井仙太郎  
 増永 辰治 中林清右衛門 谷崎 確 宮田 榮  
 船橋金之助 鹿島 守雄 久米川虎八 渡邊 協

● 精神病室の新築

金澤病院神經科新設以來既に貳拾ヶ月にふんごする其間外科壹部及婦人科病室の一部を借りて診察所及び病室に當てつゝありしが本夏以來新に精神病舎及診察所等の新築の工を起し月を重ぬる事五ヶ月漸く其工程を終ひ近々中に移轉の運びに至らむとす病舎の位置たるや内科病室の後方病院の最後部に位し遙に卯辰の青丘を眺め淺野川の清流河北湖の白帆を一瞬の裡に納め市中の綠瓦白壁青松の中に指點し得べく夜は海風徐々に衣を拂ひ幾百の燈火脚下に明滅するの勝景蓋し病院の別天地保養の好樂園なり施設する所本館一棟病室二棟浴場一棟其經費約九千有餘圓ありとす本館は則ち診察室醫局研究室暗室等を具備し病室は内部純日本式に普通病室の閑潔なるもの其收容患者數約二十餘名を數ふべく其自由と其式に至りては此種の病室として完全に近いものからんか。

(人事)

人事

● 教授の叙勳

此度左の通り校長及教授の叙勳ありたり

勳三等 高安 校長  
 勳五等 下平 教授  
 全上 金子 教授  
 勳六等 佐々木 教授

● 山崎教授陞叙

今回山崎教授には高等官二等に叙せられたり。

● 島田吉三郎氏

本校二十九年卒業生にして本校講師さふり後ち京都醫科大學解剖學教室に助手として研鑽し今回新潟醫學專門學校教授に榮轉せられ解剖學を擔任せらる。

● 越野義三郎氏

石川縣技師を辭し金澤病院内科二部等に研究せられたる後ち高岡市に開業せらる。

● 鷺山讓吉氏

石川縣金澤病院婦人科醫員を辭し去る月高岡市に開業せられたり。

● 韓清泉氏

四十一年卒業の氏は引續き金澤病院外科貳部に研究せられ今回清國浙江省杭州病院部長として歸國同時に同省醫科大學創設委員さふり傍ら高等學校々醫の要職を兼ねらる願はくは未來の大清國醫科大學教授たるの意を以て益々奮勵されん事を望む。

● 井村勇作氏

四十二年卒業後金澤病院神經科にありて實地的研究中の所奮然宿年の素志を果すべく東京醫學博士山田鉄藏氏經營の大久保腦

病院醫員より八月赴任せられたり。

●田中基保氏 四十年卒業の氏は高安博士の下に眼科研究後櫻木病院醫員となり上田教授の下に勉學中なりしが去月東大教授河本博士の下に研學し今回愈々小松に於て眼科専門として開業の由。

●中村欣一郎氏 四十年卒業後金澤病院内科貳部醫員として腕腕を振ひし氏は本月より櫻木病院醫員に轉任せられたり。

●森次郎氏 四十一年卒業の氏は今回内科貳部に入り大に斯學の研究に従はるゝ由。

●西川良造氏、山際房次郎氏 (四十二年)名古屋私立病院好生館醫員とせられたり。

●大井藤治郎氏 (同)山形縣飽海郡南遊佐村の自宅に於て開業せらる。

●大藏關重氏 (四十年)東京帝國大學病理教室に研究中。

●近森村主氏 (三十八年)高知縣トラホーム檢診醫の氏は高知市北新町八二に轉任せられたり。

●八賀重遠氏 (四十二年)金澤市立川町林病院に奉職。

●中西島吉氏 德島縣板野郡の郷里に開業せられたり。

●池田茂氏 福井縣大野郡勝山町に開業。

●塚本政次氏 (四十二年)内科一部研究生を辭し東京大學入澤内科介補に轉學。

●山本直枝氏 同前。

●山岸岳氏 (四十二年)内科二部研究生を辭し東京回生病院醫員に轉任せらる。

●松田研吉氏 石川縣能美郡川北村に轉居開業せらる。

●谷道清氏 (四十年卒業)一年志願兵も終り研究中今回富山縣

射水郡作道村に開業。

●高谷七兵衛氏 (三十九年)青森縣北津輕郡板柳村に開業。

●南茂吉氏 和歌山赤十字社支部病院を辭し三重縣南牟婁郡木の本院醫員に轉任。

●大原米次郎氏 (四十一年)京都大學醫院耳鼻咽喉科に研究の所今回京都市御幸町通錦小路北入にて耳鼻咽喉科専門にて開業。

●宮田寛氏 札幌逸見病院に奉職中の所今般札幌區北八條西四丁目に開業せらる。

●山崎芳太郎氏 今回京都市日本橋區橋町三丁目に移轉開業。

●關承吾氏 (四十二年)内科貳部研究生として永々研究中の所今回中村氏の後を襲ひ内科貳部醫員に任せらる。

●鈴木伊作氏 (同年度)金澤病院婦人科醫員を辭し近々中に郷里に於て開業せらるゝ由。

●中田盈疇氏 (同年度)内科一部研究生を辭し金澤市山田病院に轉任せられたり。

●河合鷹氏 獨逸留學中の氏は頃日ドクトル試験を卒へ目出度ドクトル、メヂチ子學位を得らる。

●齊藤房治氏 高岡東病院内科を永々擔任の處今回同院を辭し金澤病院各科傍觀近々中に開業の由。

●今村碩次氏 大聖寺病院を辭し高岡東病院へ轉任。

●相馬申五郎氏 外科一部に研究中途一旦郷里に歸り再び金澤病院婦人科に研究。

●高木琢磨氏 七尾病院外科を辭し高岡市に於て開業の筈。